大阪府茨木市

平成２０年度発掘調査概報

- 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 -

平成２１年３月

茨木市教育委員会

はじめに

私たちが暮らしているこの茨木は、丹波高原の一部をなす老の坂山地にある北部の山並みと、南部を流れる豊かな水源の淀川に囲まれた大阪平野の一部をなす三島平野の中心部に位置し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた過ごしやすい環境の土地として、はるか昔から多くの人たちが生活してきました。そうした人びとの生活は風習として現在に伝えられ、また人びとの生活した足跡は、土に埋もれた文化財として今に残されてきました。

このような先人たちの生活や文化は、現代の私たちの生活の基となるものであり、また、土の中に残された遺構や遺物は、過去の人びとの生活を知る手がかりとなる貴重な文化遺産として、次代に残し伝えていくべきものであります。

しかし、市内においては、住宅開発をはじめ様々な開発が計画されており、人びとの貴重な文化財を現状のまま残すことが困難になっています。

そのため、文化財を記録して保存し、また出土した遺物や遺構などの資料から古代の人の生活像を捉えるために、住宅建築をされる方々のご協力をえて建築に先立ち、発掘調査を実施し、文化財の記録保存に努めております。

平成２０年度はおもに中条小学校遺跡、耳原遺跡、倍賀遺跡等の調査を実施し、本冊子はそれらの発掘調査について概略を述べたものです。いずれの調査地からも先人達の生活を知るうえで貴重な遺物、遺構が出土しており今後の研究が期待されます。

終わりになりましたが、調査にあたって惜しみないご協力をいただきました関係の皆様に深く感謝するとともに、今後とも本市の埋蔵文化財の保存・保護に一層の温かいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成２１年３月３１日

茨木市教育委員会

教育長　八木章治

目次

はじめに

例言

茨木市内遺跡分布図

平成20年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

1. 中条小学校遺跡（西中条町139-10）…… 1

2. 中条小学校遺跡（西中条町139-5）…… 5

3. 見付山南遺跡（見付山一丁目316-16）…… 9

4. 中条小学校遺跡（下中条町100-12）…… 12

5. 中条小学校遺跡（西中条町192-8の一部）…… 16

6. 耳原遺跡（耳原一丁目197-8）…… 23

7. 倍賀遺跡（春日四丁目228-5・228-6）…… 27

8. 郡遺跡（上郡一丁目493-5）…… 29

9. 春日遺跡（春日三丁目101-18）…… 34

10. 安威古墳群（安威三丁目）…… 39

例　言

1　本書は、平成20年度国庫補助事業（総額1,979,750円、国庫50％、市費50％）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。

2　平成20年度事業として、平成20年6月17日から平成21年3月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。

3　発掘調査は、調査員中東正之、黒須靖之、宮本賢治が担当した。整理・報告書作成業務は、平成21年3月末日まで行った。本書は各調査担当者が執筆を行ない、編集は上田哲平が行なった。整理作業は、髙橋公子、堀澤照美、下口法子、西坂泰子、和田惠津子、高瀬隆治、西井貞善、辻本祐布子、菅原麻里、中川佳恵、白井銀平、中澤克哉が行ない、遺構トレースは初代絵理が担当した。また、国庫補助に関わる事務は、館長　奥井哲秀、係長（現、主幹）池田育生、主査　川井いゆ子（～平成20年7月）、上田哲平（平成20年7月～）、福岡真菜が担当した。

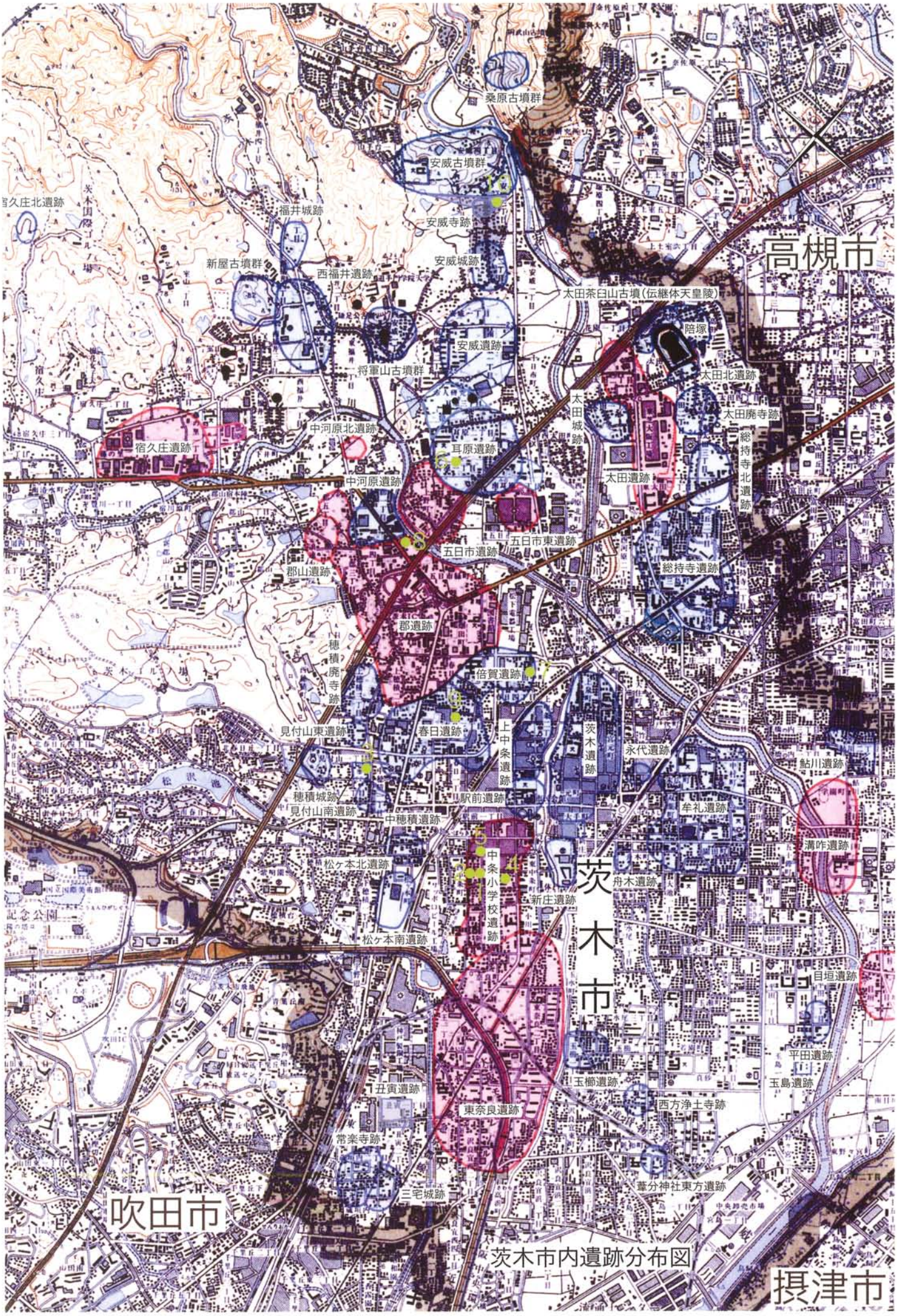
4　本書で使用する標高は、すべてT.P.（東京湾標準海水面）で表し、各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは真北を示す。また、平面直角座標第Ⅵ系に準じる。

5　出土遺物及び関係書類・図面・写真等は、茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館
〒567-0861大阪府茨木市東奈良三丁目１２番１８号 TEL072-634-3433 で保管している。

6　遺構・遺物等の記載は、土層及び遺物の色調については『新版標準土色帖』（小山・竹原 編）を使用した。

図版目次

第１図 中条小学校遺跡 (CJ08-1)調査位置図 P.1
第２図 中条小学校遺跡 平板図･平面図等 P.3
第３図 中条小学校遺跡 遺構検出状況 P.4
第４図 中条小学校遺跡 (CJ08-2)調査位置図 P.5
第５図 中条小学校遺跡 平板図･平面図等 P.7
第６図 中条小学校遺跡 遺構検出状況 P.8
第７図 見付山南遺跡 調査位置図 P.9
第８図 見付山南遺跡 掘削状況 P.10
第９図 見付山南遺跡
平板図及び平面図･調査区土層断面図 P.11
第10図 中条小学校遺跡 (CJ08-3) 調査位置図 P.12
第11図 中条小学校遺跡
平板図及び平面図･調査区土層断面図 P.14
第12図 中条小学校遺跡 遺構面検出状況 P.15
第13図 中条小学校遺跡 (CJ08-4) 調査位置図 P.16
第14図 中条小学校遺跡
調査区配置図･第１遺構面平面図 P.18
第15図 中条小学校遺跡
第２遺構面平面図及び北壁･東壁土層断面図 P.19
第16図 中条小学校遺跡 出土遺物写真(1) P.20
第17図 中条小学校遺跡 出土遺物写真(2) P.21
第18図 中条小学校遺跡
第１・２遺構面検出状況写真 P.22
第19図 耳原遺跡 調査位置図 P.23
第20図 耳原遺跡 調査区配置図 P.25
第21図 耳原遺跡 遺構平面図･
調査区土層断面図 P.25
第22図 耳原遺跡 遺構検出状況 P.26
第23図 倍賀遺跡 調査位置図 P.27
第24図 倍賀遺跡 調査区配置図 P.27
第25図 倍賀遺跡 遺構平断面図 P.28
第26図 倍賀遺跡 西壁面検出状況 P.28
第27図 倍賀遺跡 実測作業状況 P.28
第28図 倍賀遺跡 遺構面完掘状況 P.28
第29図 郡遺跡 調査位置図 P.29
第30図 郡遺跡 平板図、平・断面図 P.32
第31図 郡遺跡 発掘作業風景 P.33
第32図 春日遺跡 調査位置図 P.34
第33図 春日遺跡 平板図、平・断面図 P.37
第34図 春日遺跡 発掘調査風景 P.38
第35図 安威古墳群 調査位置図 P.39
第36図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ配置図 P.39
第37図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ土層断面図 P.41
第38図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ1全景 P.42
第39図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ1断面 P.42
第40図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ2全景 P.42
第41図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ2断面 P.42
第42図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ3全景 P.42
第43図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ3断面 P.42
第44図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ4全景 P.43
第45図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ4断面 P.43
第46図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ4断面2 P.43
第47図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ4断面3 P.43
第48図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ5全景 P.43
第49図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ5断面(南から) P.43
第50図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ5断面(北から) P.44
第51図 安威古墳群 ﾄﾚﾝﾁ出土遺物 P.44


桑原古墳群
安威古墳群
安威寺跡
福井城跡
宿久庄北遺跡
新屋古墳群
西福井遺跡
安威城跡
高槻市
太田茶臼山古墳(伝継体天皇陵)
陪塚
安威遺跡
将軍山古墳群
太田北遺跡
太田廃寺跡
太田城跡
総持寺北遺跡
中河原北遺跡
宿久庄遺跡
耳原遺跡
太田遺跡
中河原遺跡
五日市東遺跡
五日市遺跡
総持寺遺跡
郡山遺跡
郡遺跡
穂積廃寺跡
倍賀遺跡
春日遺跡
見付山東遺跡
上中条遺跡
茨木遺跡
永代遺跡
鮎川遺跡
穂積城跡
見付山南遺跡
駅前遺跡
中穂積遺跡
牟礼遺跡
溝咋遺跡
中条小学校遺跡
松ヶ本北遺跡
茨木市
舟木遺跡
新庄遺跡
松ヶ本南遺跡
目垣遺跡
平田遺跡
玉島遺跡
丑寅遺跡
玉櫛遺跡
東奈良遺跡
西方浄土寺跡
常楽寺跡
三宅城跡
葦分神社東方遺跡
吹田市
摂津市

茨木市内遺跡分布図

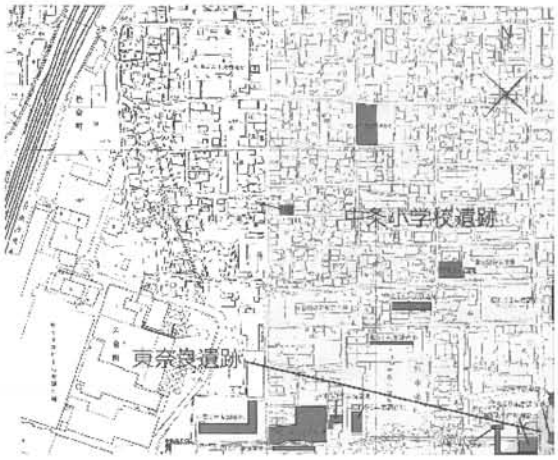
平成２０年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

No	遺跡名	調査担当	調査位置	調査期間	調査面積	調査内容
1	中条小学校遺跡 （ＣＪ08-01）	宮本	西中条町139-10	H20.6.18～ H20.6.19	18.0㎡	中世時代 ﾋﾟｯﾄ・土壙・溝
2	中条小学校遺跡 （ＣＪ08-02）	宮本	西中条町139-5	H20.6.18～ H20.6.19	18.0㎡	中世時代 ﾋﾟｯﾄ・土壙・溝
3	見付山南遺跡 （ＭＴＭ08-01）	宮本	見付山一丁目316-16	H20.7.10	18.0㎡	遺構検出されず
4	中条小学校遺跡 （ＣＪ08-03）	宮本	下中条町100-12	H20.8.12	18.0㎡	弥生時代～古墳時代 溝・柱穴・ﾋﾟｯﾄ
5	中条小学校遺跡 （ＣＪ08-04）	宮本	西中条町192-8の 一部	H20.9.30～ H20.10.1	18.0㎡	弥生時代～中世時代 第1面(古墳～中世) ﾋﾟｯﾄ・溝 第2面(弥生～古墳) 周溝・用途不明遺構
6	耳原遺跡 （ＭＨ08-01）	宮本	耳原一丁目197-8	H20.10.22～ H20.10.23	12.0㎡	弥生時代 柱穴・土壙・ﾋﾟｯﾄ・ 溝
7	倍賀遺跡 （ＨＫ08-01）	中東	春日四丁目228-5・ 228-6	H20.10.30	15.0㎡	古墳時代 溝
8	郡遺跡 （ＫＯ08-01）	宮本	上郡一丁目493-5	H21.1.19～ H21.1.20	12.0㎡	弥生時代～古墳時代 溝・ﾋﾟｯﾄ・土壙
9	春日遺跡 （ＫＳ08-01）	宮本	春日三丁目101-18	H21.2.24～ H21.2.26	24.9㎡	古墳時代 平安時代～中世時代 柱穴・溝・ﾋﾟｯﾄ・土壙
10	安威古墳群 （ＡＫ08-01）	黒須	安威三丁目	H20.11.11	20.0㎡	この調査は、包蔵地範囲確定のための緊急調査である
11	穂積廃寺 （ＨＨ08-01）	宮本	上穂積三丁目1004-1	H21.3.5～ H21.3.9	34.0㎡	
12	鮎川遺跡 （ＡＹ08-01）	宮本	鮎川二丁目84-9	H21.3.16	2.0㎡	遺構検出無し

No.11～12についての報告は「平成21年度発掘調査概報 - 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 - 」にて掲載します。

中条小学校遺跡

所在地　茨木市西中条町 139－10
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成 20 年 6 月 18 日・19日
調査面積　18 ㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果



第１図　調査位置図

中条小学校遺跡は、新中条町の中条小学校を中心に、南北約1km×東西に約0.4kmの西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合的な集落遺跡である。地形的には、西方に存在する千里丘陵からのびる低位段丘と当地を北から南にかけて流れる茨木川が形成した沖積地上に立地している。今回の調査地は、中条小学校遺跡の包蔵地として知られている範囲のほぼ西端に位置している。既往の調査では、当調査地よりほぼ南方に約350mの箇所において平成 17 年度に共同住宅建設に伴う事前の発掘調査が実施されている。この調査では、弥生時代後期頃～古墳時代前期初頭頃、古墳時代後期前半、飛鳥～奈良～平安～鎌倉時代といった遺物・遺構等が数多く検出されており、複合集落遺跡としての様相が顕著にみられた。近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落である東奈良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。中条小学校遺跡の当市教委による既往の調査からは、古墳時代中期頃の堀建柱建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が多く見られる。また、その後の空白時期をおいて平安時代中期から後期頃の黒色土器椀Ａ類や同Ｂ類も出土している。

今回の調査においては、主に中世頃を中心に営まれた集落の生活面を調査の対象とした。なお、この調査（CJ08-1）は今年度の中条小学校遺跡において、第１次目となる。

基本層序

基本層序については、第１層～第４層に大別する事ができる。上層より順に、１層は現代の盛土層で以前の既存建物の基礎などの撹乱・造成盛土を含む層である。層厚は、西側箇所については約50cm、東側箇所については約40cm であった。2層は旧耕作土で、層厚は約 4～15cm を計る。3層においては旧耕作土直下において、中世頃の遺物を包む層が検出された。灰色粘質土HC5Y4/1 にオリーブ色砂粒 S5YR6/8が混じるもので、中世遺物包含層である。層厚は、約5～10cm を計る。4層は、地山層である。この面において、中世頃の遺構を検出している。明黄褐色粘質土 SC2.5Y6/6 である。

なお、土層断面中の精査及び観察を行った結果、今回の調査では弥生時代～古代の土器

等は検出できなかった。

検出遺構

今回の調査によって検出された遺構は、柱穴（ピット）遺構8基、溝状遺構1条、土壙遺構1基、柵列遺構2列である。この内、柵列遺構については、調査区の西端及び東端において、それぞれ1列ずつ検出している。西端の柵列遺構については、ピット状遺構4基が南北方向に柵列状に並んでおり、規模はそれぞれ概ね直径約50cm、深さ約20cmを計る。また、東端の柵列遺構については、ピット状遺構6基が南北方向に柵列状に並んでおり、規模はそれぞれ概ね直径約10cm、深さ約5cmを計る。西端で検出された柵列状遺構に比べ、規模が小さい事が分かる。

今回の調査においては、弥生時代から古代にかけての遺構・遺物等は検出されなかった。

なお、今回の調査地の遺構検出面の標高については、西端付近ではT.P約10.5m、東端付近においては約10.6mを測り、地形的にはやや東から西方向にかけて緩やかな扇状地形の様相を示している事が分かる。

出土遺物

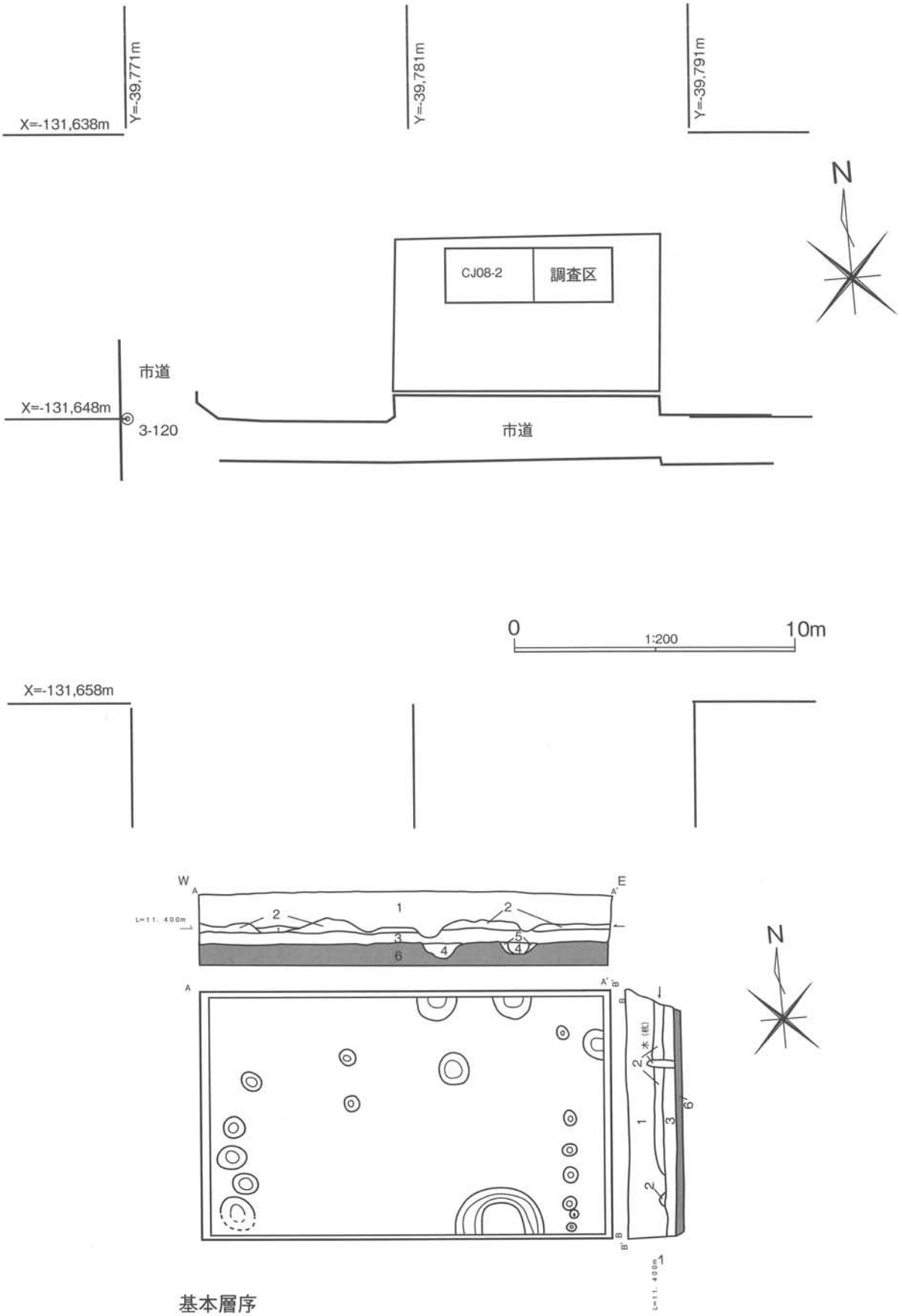
今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド（縦14×横36×奥行き56cm）に換算して1箱分である。その種類と内訳は土師器が中心であるが、そのほとんどが摩滅しており、実測可能な遺物は出土しなかった。

まとめ

今回の調査から、中世頃の柱穴遺構や柵列等の遺構を検出した。この事から、当地を含めた調査地周辺において中世頃の集落の存在が明らかになった。なお、検出面が比較的浅い事から、弥生時代から古代頃にかけての遺物包含層や遺構などは中世頃削平を受けた、あるいはこの地においては中世頃に集落としての広がりや発展をみせたものと考えている。

参考文献

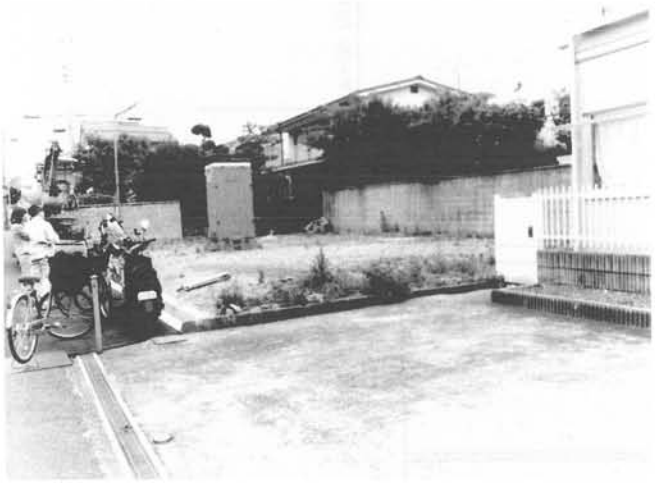
茨木市教育委員会『平成18年度発掘調査概報』平成19年3月



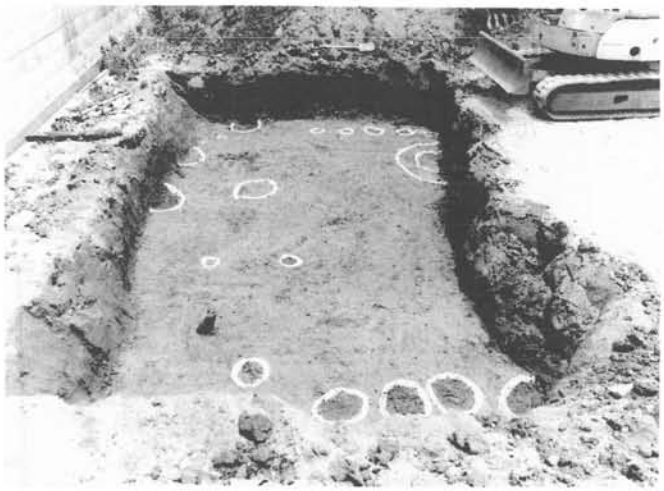
基本層序

1. 盛土
2. 旧耕土
3. 灰色粘質土 HC５Y４／１にオリーブ色砂粒５Y６／８
4. 黄灰色粘質土 HC2.5Y４／１
5. 黄灰色粘質土 HC2.5Y５／１に、にぶい黄色粘質土 SC2.5Y６／３
6. 明黄褐色粘質土 SC2.5Y6／６（地山）

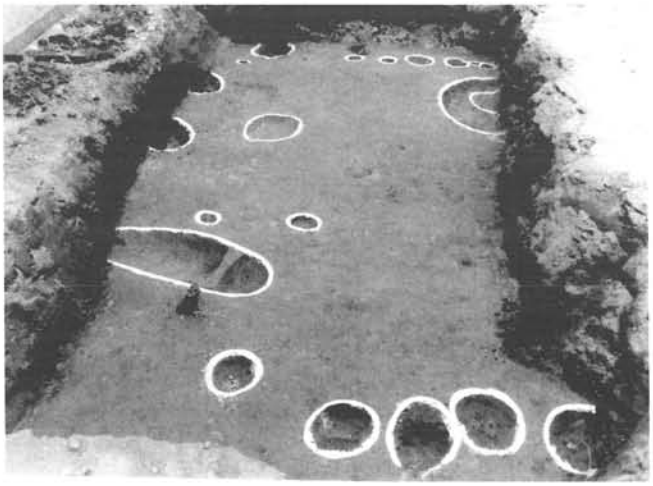
第2図　中条小学校遺跡（CJ08-1）平板図・平面図等



調査区全景(南東から)

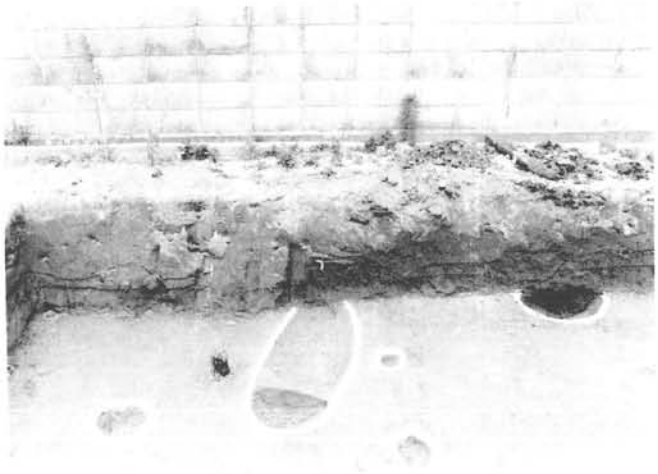


遺構検出状況(西から)



遺構完掘状況(西から)

調査区西壁土層断面



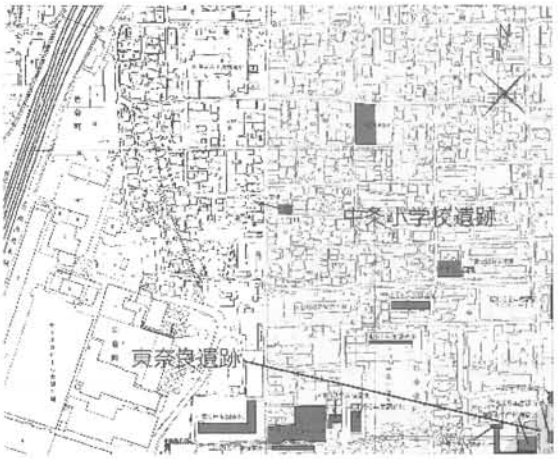
調査区北壁土層断面・西部

調査区北壁土層断面・東部

第3図　中条小学校遺跡(CJ08-1)　遺構検出状況

中条小学校遺跡

所在地　茨木市西中条町139－5
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成20年6月18日・19日
調査面積　18㎡
調査担当　宮本　賢治



第4図　調査位置図

調査結果

中条小学校遺跡は、新中条町の中条小学校を中心に、南北約1km×東西に約0.4kmの西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合的な集落遺跡である。地形的には、西方に存在する千里丘陵からのびる低位段丘と当地を北から南にかけて流れる茨木川が形成した沖積地上に立地している。今回の調査地は、中条小学校遺跡の包蔵地として知られている範囲のほぼ西端に位置している。既往の調査では、当調査地よりほぼ南方に約350mの箇所において平成17年度に共同住宅建設に伴う事前の発掘調査が実施されている。この調査では、弥生時代後期頃～古墳時代前期初頭頃、古墳時代後期前半、飛鳥～奈良～平安～鎌倉時代といった遺物・遺構等が数多く検出されており、複合集落遺跡としての様相が顕著にみられた。近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落である東奈良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。中条小学校遺跡の当市教委による既往の調査からは、古墳時代中期頃の堀建柱建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が多く見られる。また、その後の空白時期をおいて平安時代中期から後期頃の黒色土器椀A類や同B類も出土している。

今回の調査においては、主に中世頃を中心に営まれた集落の生活面を調査の対象とした。なお、この調査（CJ08-2）は今年度の中条小学校遺跡において、第2次目となる。

基本層序

基本層序については、第1層～第4層に大別する事ができる。上層より順に、1層は現代の盛土層で以前の既存建物の基礎などの撹乱・造成盛土を含む層である。層厚は、西側箇所については約50cm、東側箇所については約40cmであった。2層は旧耕作土で、層厚は約4～15cmを計る。3層においては旧耕作土直下において、中世頃の遺物を包む層が検出された。灰色粘質土HC5Y4/1にオリーブ色砂粒S5YR6/8が混じるもので、中世遺物包含層である。層厚は、約5～10cmを計る。4層は、地山層である。この面において、中世頃の遺構を検出している。明黄褐色粘質土SC2.5Y6/6である。この土層断面観察においては、東隣りの調査と同様の様相がみられる結果となった。

なお、土層断面中の精査及び観察を行った結果、今回の調査では弥生時代～古代の土器は出土しなかった。

検出遺構

今回の調査によって検出された遺構は、柱穴(ピット)遺構4基、溝状遺構1条、土壙遺構1基である。東隣りの調査で検出された、柵列遺構は今回の調査地からは検出されなかった。

今回の調査においては、弥生時代から古代にかけての遺構・遺物等は検出されなかった。

なお、今回の調査地の遺構検出面の標高については、西端付近においては約10.6mを測り、東端付近においては約10.5mを測る。この事から地形的には、やや東から西方向にかけて緩やかな扇状地形の様相を示している。ちなみに東に隣接する発掘調査地(CJ08-1)では西端付近ではT.P約10.5m、東端付近においては約10.6mを測る事からCJ08-1とCJ08-2との調査地においては、地形的に2つの調査区の中央付近ではややくぼみ状の低地形の様相を示している事が分かる。

出土遺物

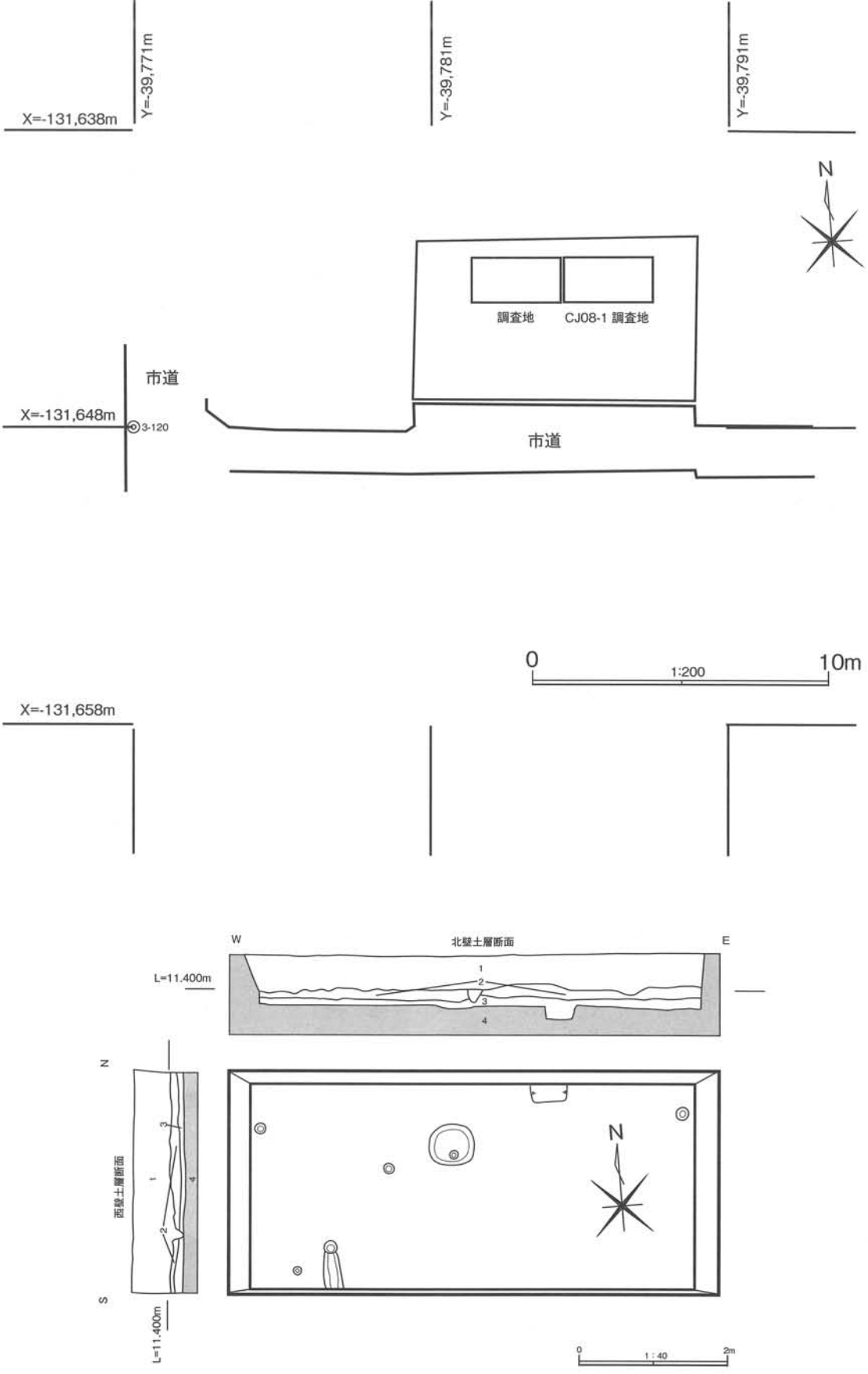
今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド(縦14× 横36× 奥行き56cm)に換算して1箱分である。その種類と内訳は土師器が中心であるが、そのほとんどが摩滅しており、実測可能な遺物は出土しなかった。

まとめ

今回の調査から、中世頃の柱穴遺構や土壙等の遺構を検出した。この事から、当地を含めた調査地周辺において中世頃の集落の存在が明らかになった。なお、中条小学校遺跡は弥生時代中期から始まる複合集落遺跡である事から、弥生時代中期から古代頃にかけての遺構等は中世頃に削平を受けたかもしくは中世頃に集落としての広がりがみられたものと考えている。今後はこれらの成果を基に、既往の調査と照らし合わせて検討し、中条小学校遺跡の集落の歴史的背景をあきらかにしていきたい。

参考文献

茨木市教育委員会『平成18年度発掘調査概報』平成19年3月



基本層序

1. 盛土
2. 旧耕土
3. 灰色粘質土 HC５Y４／１にオリーブ色砂粒５Y６／８
4. 明黄褐色粘質土 SC2.5Y6／6（地山）

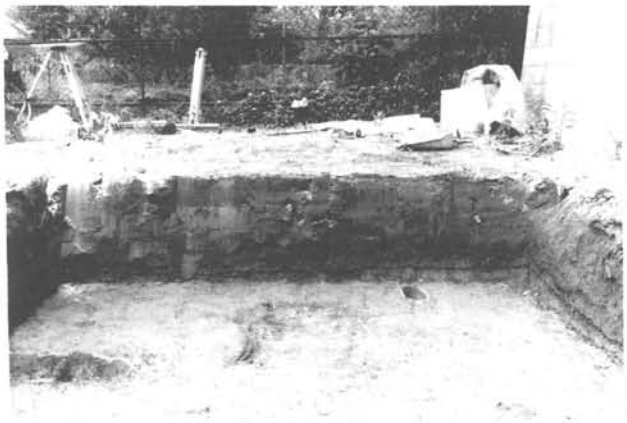
第5図　中条小学校遺跡（CJ08-2）平板図・平面図等

遺構検出状況(西から)

遺構完掘状況(西から)

調査区北壁土層断面・西部

調査区北壁土層断面・東部



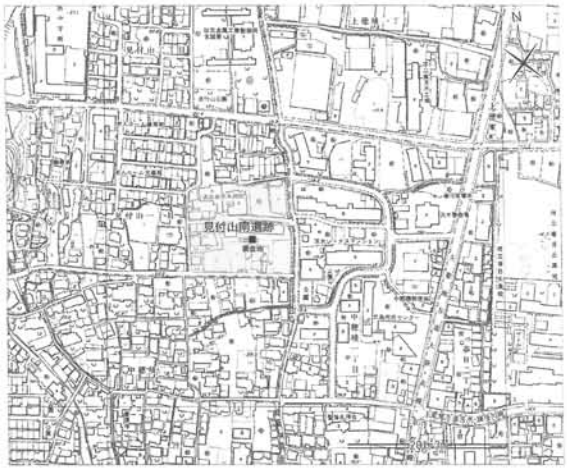
調査区西壁土層断面

調査区全景(南東から)

第6図　中条小学校遺跡(CJ08-2)　遺構検出状況

見付山南遺跡

所在地　茨木市見付山一丁目316－16
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成20年7月10日
調査面積　18㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果



第7図　調査位置図

見付山南遺跡は、平成17年度の確認試掘調査によって新発見された遺跡である。遺跡の包蔵地は見付山一丁目付近を中心に、東西に約125m×南北に約110mのほぼ正方形の形に広がりをみせる。その翌年の平成18年には、宅地の分譲地開発に伴う、事前の確認試掘調査において、区画道路の走る下水道埋設箇所で埋蔵文化財に支障をきたす事から発掘調査が実施されている。その当時の調査の結果、中世遺物包含層は確認されており、その下層において奈良時代頃～中世頃にかけての柱穴遺構が多数検出された。その柱穴の一部は、規模は不明であるが掘立柱建物跡と考えられている。また、調査区の西側において落ち込み状の箇所が検出されており、その埋土より6世紀初頭頃の円筒埴輪の破片が出土している。なお、この落ち込みからは古墳～奈良時代にかけての遺物の堆積がみられたとされる。この他の出土遺物としては、遺物包含層内より、土師器や須恵器、瓦器などが出土している。また、穂積廃寺跡との関連性のあると考えられる平瓦（古代瓦）も出土している。この調査から、6世紀初頭のものとみられる円筒埴輪の破片が出土している事から当地周辺を含め、同時期の埋没墳の存在の可能性を伺わせる結果となったと思われる。
なお、今回の調査地は上記の円筒埴輪が出土した箇所より、南に約30m離れた場所である。

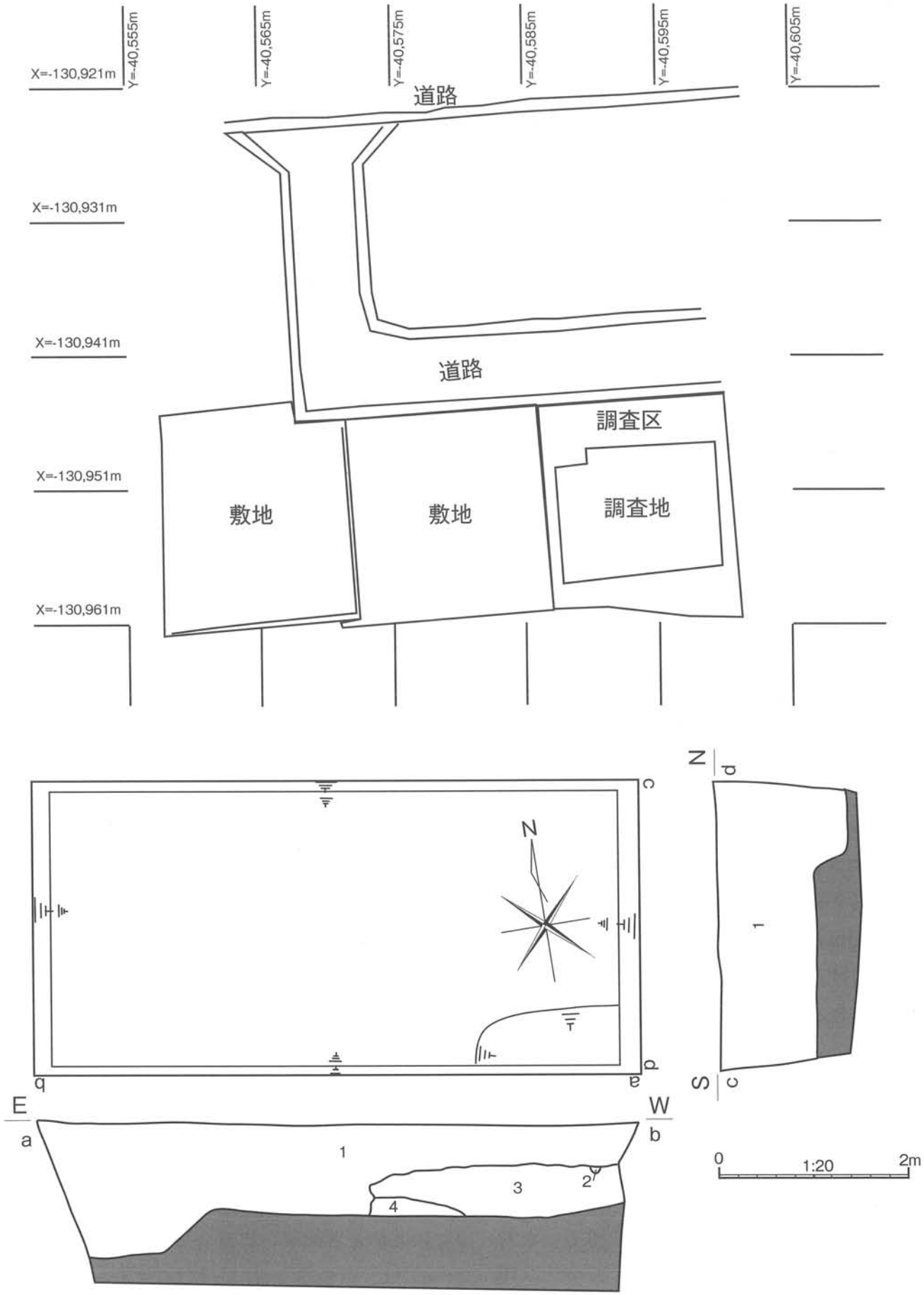
基本層序

調査区の基本層序は、第1層から第4層に大別される。層序は上層から順に、第1層（現代の盛土・既存建物の撹乱等を含む。調査区東側部分、層厚平均1.4m。調査区西側部分、層厚平均40cm。全体の層厚平均90cm）、第2層（現耕土、鋤溝）、第3層（黄色粘土。HC2.5Y8/6層厚平均50cm。地山斬移層と考えられる。）、第4層（黄灰色砂S2.5Y6/1。層厚平均10cm。地山層）となる。それぞれの層を観察したが、以前の既存建物の基礎等によって撹乱を受けており、遺物・遺構などは検出できなかった。

まとめ

今回の調査から、見付山南遺跡の包蔵する時期に相当する古墳～奈良時代、中世頃の遺物や遺構などは、以前の既存建物等の基礎による撹乱を受け削平されていた事が分かった。

第8図　掘削状況（西より）



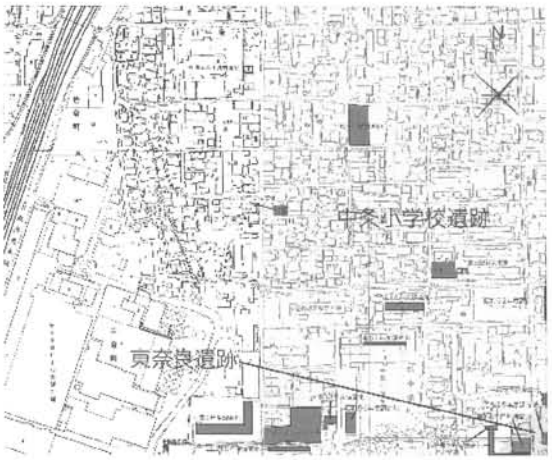
基本層序

1. 盛土（撹乱土）
2. 鋤溝（旧耕作溝）
3. 黄色粘土 HC2.5Y8/6
4. 黄灰色砂粒 S2.5Y6/1

第9図　見付山南遺跡（MTM08-1）平板図及び平面図・調査区土層断面図

中条小学校遺跡

所在地　茨木市下中条町100－12
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成20年8月12日
調査面積　18㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果



第10図　調査位置図

中条小学校遺跡は、新中条町の中条小学校を中心に、南北約0.8km×東西に約0.4kmの西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合的な集落遺跡である。今回の調査地は、中条小学校遺跡のほぼ中央に位置しており、南方には近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落跡である東奈良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。中条小学校遺跡の当市教育委員会による既往の調査からは、古墳時代中期頃の掘建柱建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が多く見られる。また、その後の空白時期をおいて平安時代中期から後期頃の黒色土器椀Ａ類や同Ｂ類も出土している。なお、既往の調査では、当調査地より南東に約75ｍの場所において平成18年度に社員寮建設に伴う事前の発掘調査が実施されている。この調査では、弥生時代後期頃から古墳時代前期初頭頃にかけての竪穴住居跡が1棟や２重に巡る推定約直径10ｍ以上の円形周溝や、井戸遺構１基が検出されている。

今回は主に、弥生時代後期から古墳時代前期初頭を中心に営まれた集落の生活面を調査の対象とした。なお、この調査（CJ08-3）は今年度の中条小学校遺跡において、第3次目となる。

基本層序

調査区の基本層序は、第1層～第6層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第1層は現代の盛土層で以前の既存建物の基礎などの撹乱・造成盛土を含む層である。層厚は、西側箇所において約70cm、北側箇所では約20cm、南側箇所では約30cmを計る。2層は旧耕作土で、層厚は約15cmを計る。なお、調査区北側土層断面中においては撹乱を受け削平され残存していない状況であった。3層においては、灰色粘土HC5Y4/1にオリーブ色砂粒SiCL5Y5/6が混じるもので、自然堆積の様相を示す層である。層厚は、概ね15cmを計る。4層においては、黄灰色粘性シルトSiC2.5Y4/1で3層と同様、自然堆積の様相を示す層である。層厚は、概ね20cmを計るが北側箇所においては約6cmと層が希薄となっている。5層は、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の土器を含む層が検出された。黄灰色粘質土

HC2.5Y5/1に橙色砂質土SC2.5YR6/8が混じる層で、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺物包含層である。層厚は、西側箇所においては約40cm、北側箇所においては約14cm、南側箇所では約30cmを測り西側及び南側では残存状況が極めて良好な様相がみられ、逆に北側では層が希薄な状況であった。6層は、地山層である。この面において、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺構を検出している。黄褐色粘質土HC10YR5/8に、褐灰色粘土ブロックHC10YR6/1が混じる層である。

検出遺構

今回の調査によって検出された遺構は、柱穴遺構6基、ピット状遺構11基、溝状遺構1条である。集落の存続時期は、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃である。この内、溝状遺構については、北西から弧を描く様に南に向かい、そして北東方向に検出されている事から周溝の可能性が考えられる。ただ、調査区外に伸びる事から全体の様相については、分からなかった。この溝の規模は、幅約30cm、深さは中央部においては約25cm、東部では約60cmを計る。なお、今回の調査地の遺構検出面の標高については、西端付近ではT.P約10.3mを測る。また、遺構は調査区の北側箇所に集中して検出されており、中央付近やや北から南側については、後世の削平を受けた影響からか遺構は検出されなかった。

出土遺物

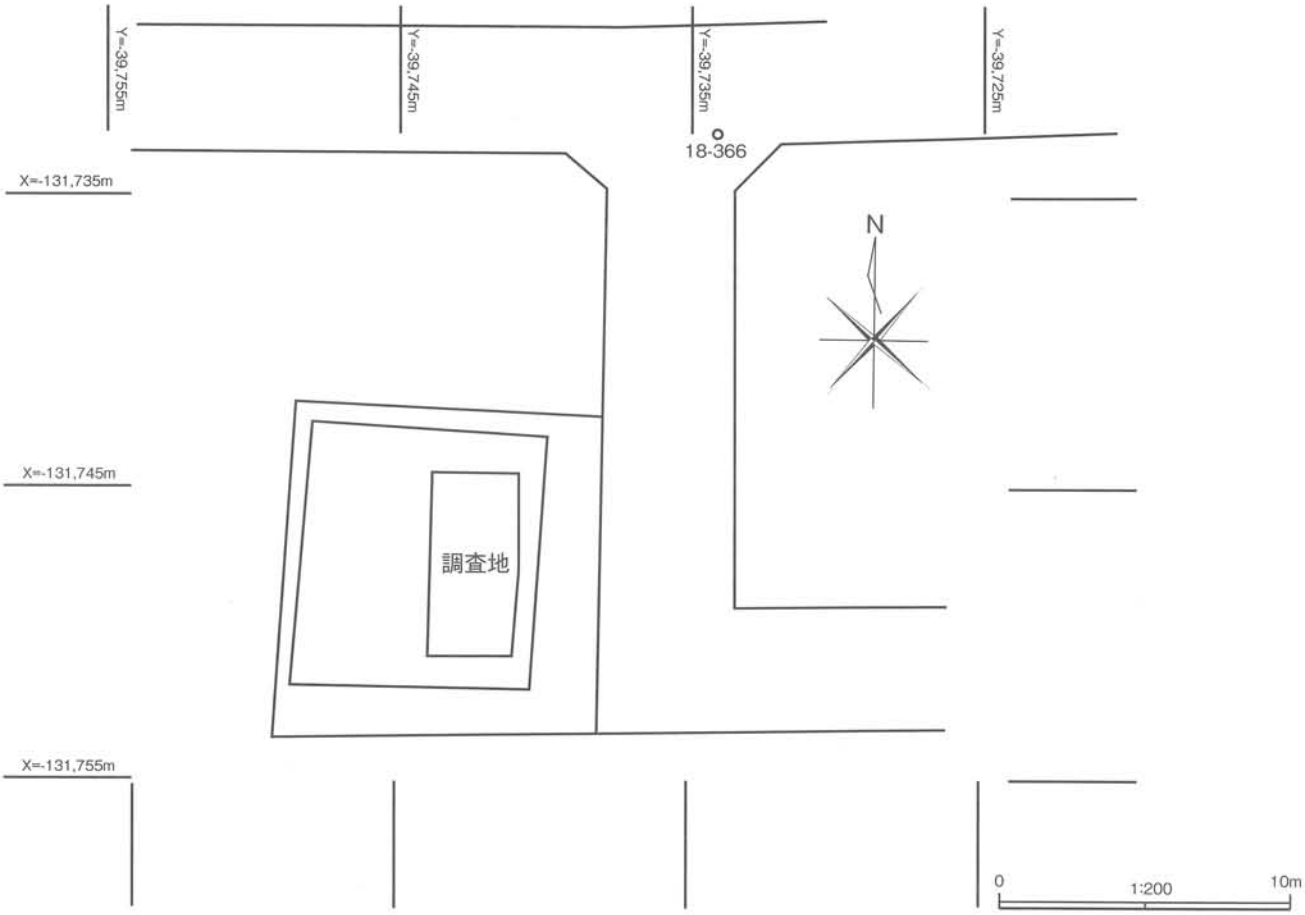
今回の調査において出土した遺物の量は、遺物包含層からはほとんど出ず、溝遺構埋土から弥生土器の破片が1点出土したのみである。唯一出土したその弥生土器は、「かめ」あるいは壷の底部と思われるが、底部からの立ち上がりの箇所が摩滅しており時期の詳細を明らかにする事が難しく、推定を含めた復元が困難な事から実測の対象外とした。

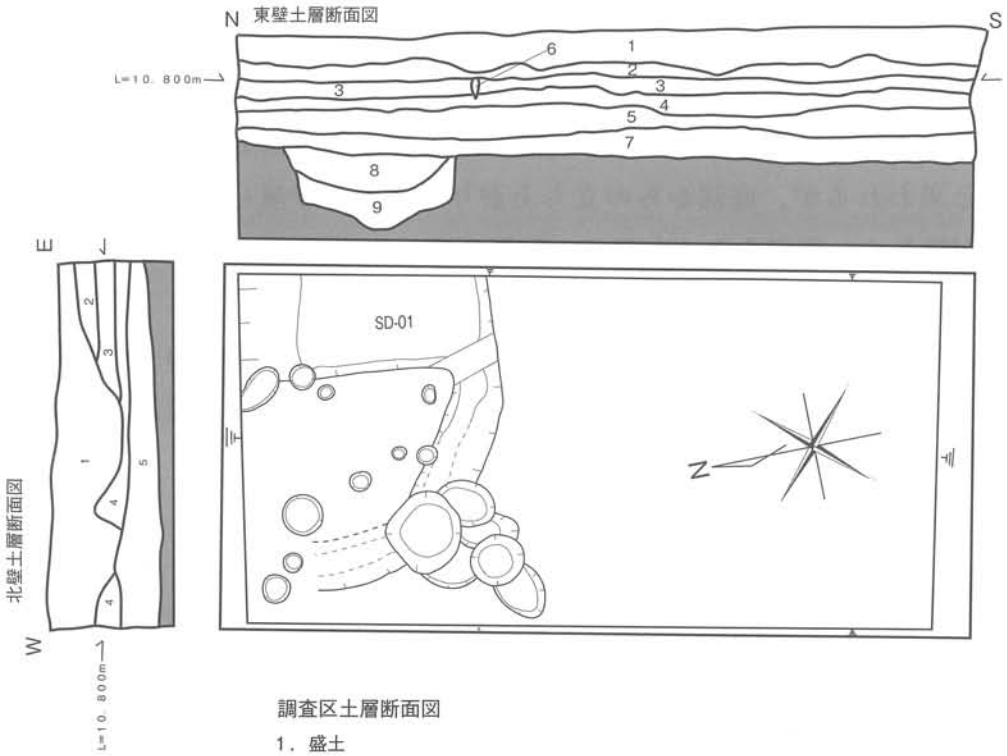
まとめ

今回の調査から、弥生時代の後期頃～古墳時代初頭にかけての生活遺構の一部を検出した。これらの成果を基に、今後は既往の調査と照らし合わせて、中条小学校遺跡の集落の歴史的背景を検討してあきらかにしていきたい。

参考文献

茨木市教育委員会『平成18年度発掘調査概報』平成19年3月



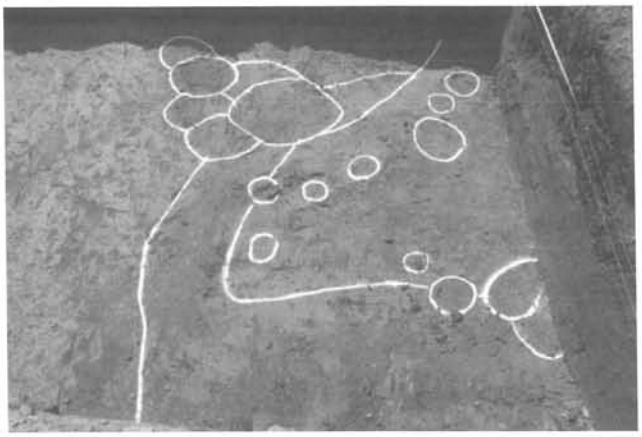


調査区土層断面図

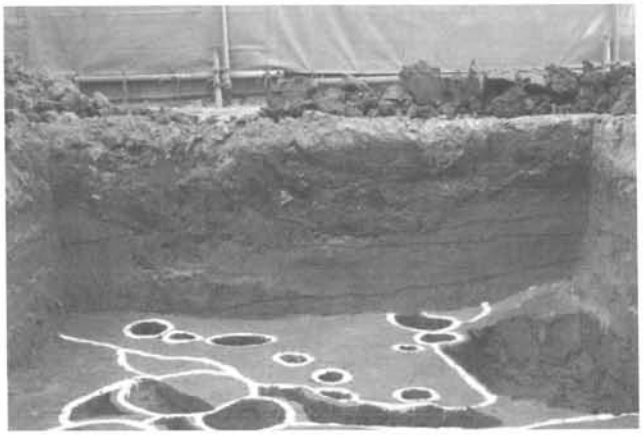
1．盛土
2．旧耕土
3．灰色粘土 HC5Y4/1 にオリーブ色 SiCL5Y5/6 混じる。
4．黄灰色粘性シルト SiCL2.5Y4/1
5．黄灰色粘質土 HC2.5Y5/1 に橙色砂質土 SC2.5Y6/8 混じる。
6．灰色砂質土 S5Y4/1※植物遺体
7．黄褐色粘質土 HC10YR5/8 に褐灰色粘土ブロック HC10YR6/1 混じる。
8．灰色粘土 HC10Y6/1 に黄色砂質土 S5Y7/8 混じる。※弥生時代、溝遺構埋土上層。
9．オリーブ黒色粘土 HC5Y3/2※弥生時代、溝遺構埋土下層。炭含む。

第11図　中条小学校遺跡（CJ08-3）平板図及び遺構平面図、調査区土層断面図

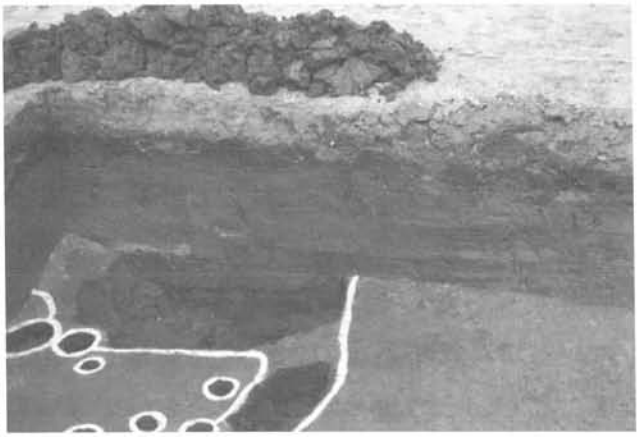
遺構検出状況　（南西より）



調査区北半部・遺構検出状況（東より）



調査区、北壁土層断面



調査区、東壁土層断面・北半部

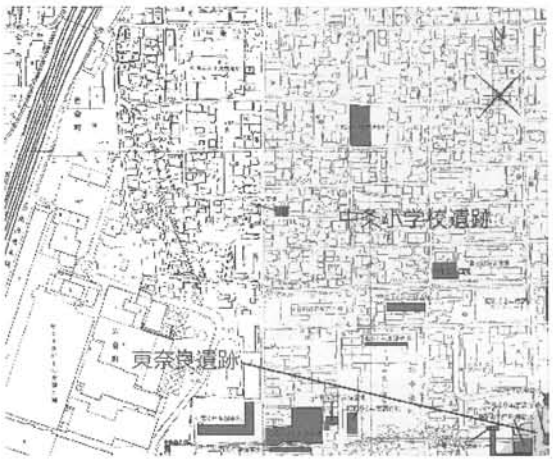
調査区、東壁土層断面・南半部

遺構完掘状況　（南より）

第12図　中条小学校遺跡（CJ08-3）遺構面検出状況

中条小学校遺跡

所在地　茨木市西中条町192－8の一部
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成20年9月30日・10月1日
調査面積　18㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果



第13図　調査位置図

中条小学校遺跡は、新中条町の中条小学校を中心に、南北約0.8km×東西に約0.4kmの西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合的な集落遺跡である。今回の調査地は、中条小学校遺跡のほぼ中央に位置しており、南方には近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落である東奈良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。中条小学校遺跡の当市教委による既往の調査からは、古墳時代中期頃の堀立柱建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が多く見られる。また、その後の空白時期をおいて平安時代中期から後期頃の黒色土器椀A類や同B類も出土している。なお、今回の調査地は中条小学校遺跡として、最初に調査が行なわれた場所である中条小学校からは、北東に約140m先の場所に位置している。

今回の調査においては、主に弥生時代後期から古墳時代と中世頃の生活面を調査の対象とした。なお、この調査（CJ08-4）は今年度の中条小学校遺跡において、第4次目となる。

基本層序

基本層序については、第1層～第6層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第1層は現代の造成盛土を含む層である。層厚は、全体を通して概ね50cmを計る。2層は旧耕作土で、層厚は概ね15～20cmであるが、南側においては約10cmと他の箇所と比べやや希薄にうつる。3層においては、旧耕作土の床土で層厚は概ね5cmを計るが、南側の一部については削平されている状況であった。4層においては、中世頃の土器片を含む層となっている。黒色粘質土HC2.5Y2/1で、層厚は概ね12cmを計るが調査区の北壁土層断面中と同層の北側の平面にのみに層が検出されており、同区の東壁土層断面中及び南側の平面においては確認できなかった。なお、この4層において、中世頃の生活面を検出して調査の対象とした。5層は、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の土器を含む層が検出された。黄灰色粘土HC2.5Y5/1の層で、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺物包含層である。層厚は、西側箇所においては約10cm、北側箇所においては約16cm、南側箇所では約30cmを測る事から南側では残存状況が極めて良好な様相がみられる状況であった。6層は、地山層

である。この面において、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺構を検出している。黄灰色粘質土SC2.5Y6/1に、黄色砂S2.5Y7/8が混じる層である。

検出遺構

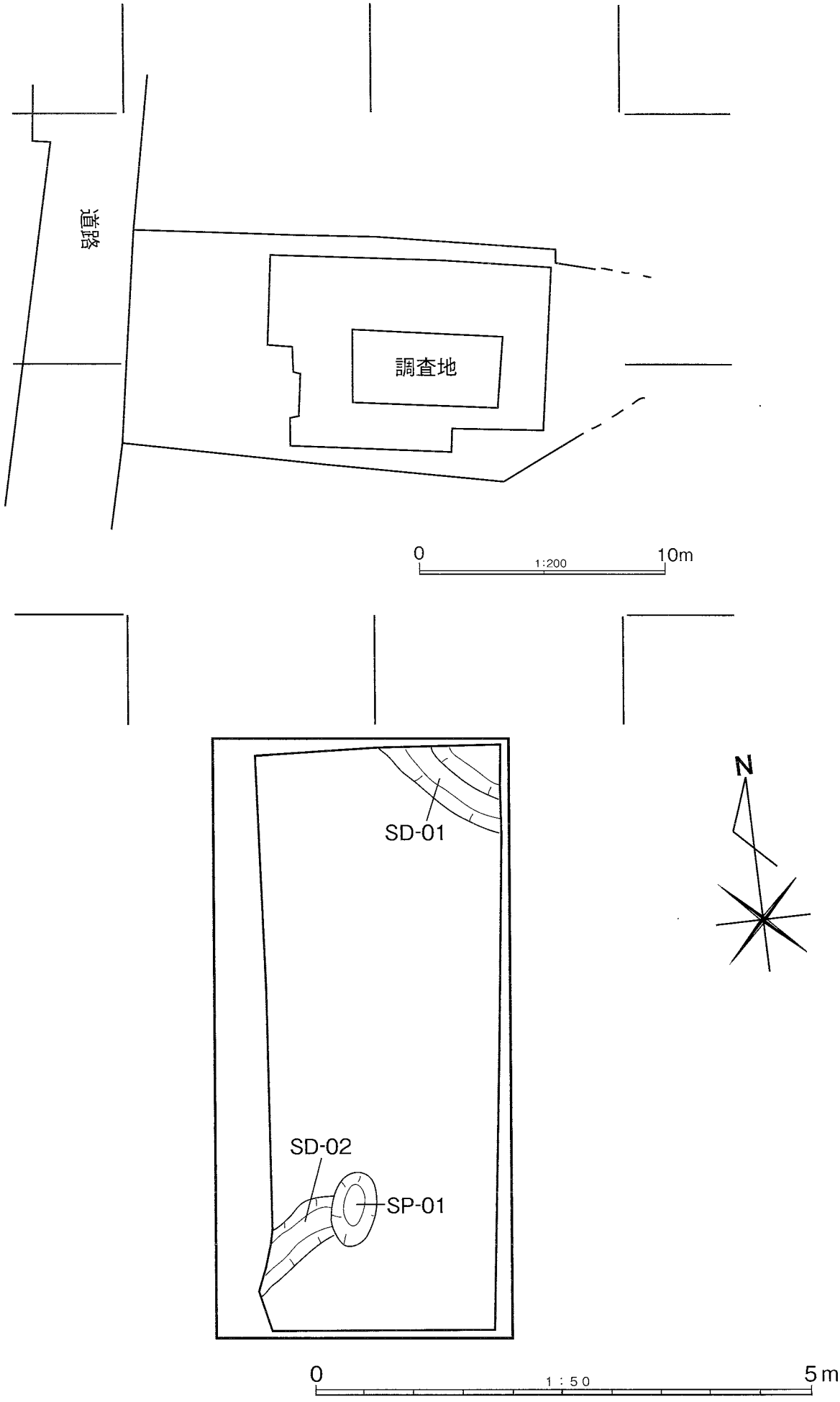
今回の調査において検出された遺構は、第１遺構面では、柱穴遺構1基、溝状遺構2条、である。存続時期については出土遺物から中世頃が比定できるが、そのほとんどが摩滅している事から詳しい時期については不詳である。それぞれ検出された遺構の規模であるが、調査区北東部隅で検出されたSD-01は上幅約50cm、下幅約10cmで、断面形態はU字形を呈する。調査区の北西から調査区内を通り、南東に走る溝遺構である。SD-02は上幅約45cm、下幅約10cmで、断面形態はSD-02と同様にU字形を呈する。なお、このSD-02は調査区外の南西方向に走り調査区外にかけて走っている。SP-01は長径約80cm×短径約50cmの規模を測り、南北に長く東西に短いピット状遺構である。なお、このSP-01はSD-02を切り合う事から第１遺構面において、時期差あるいは時間差的な構造物の造営がみられる。第２遺構面では溝状遺構１条、不明遺構１基である。存続時期については出土遺物や周辺の既往調査から、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃が比定できる。また、それぞれ検出された遺構の規模であるが、調査区の南半部で検出されたSD-01は東端部では上幅約70cm、下幅約45cmで、西端部では上幅約80cm以上、下幅約60cm以上と東端部より広がりをみせている。なお、断面形態はU字形を呈する。なお、このSD-01は検出レベルより、高低差は東方向から南西にかけて走る溝である事が分かる。また調査区北西隅においてSX-01が検出されているが、この遺構からは遺物の出土がなく、また、その大半が調査区の北側と西側に広がりをみせている事からどのような目的で造営されたのかは不明である。なお、この遺構は検出径南北約1.65m、東西約1.45m、深さは約0.25mの規模を測るものである。推定される復元規模は、検出径より、約2.72m×2.1mの楕円形状の遺構であった事が想定される。

出土遺物

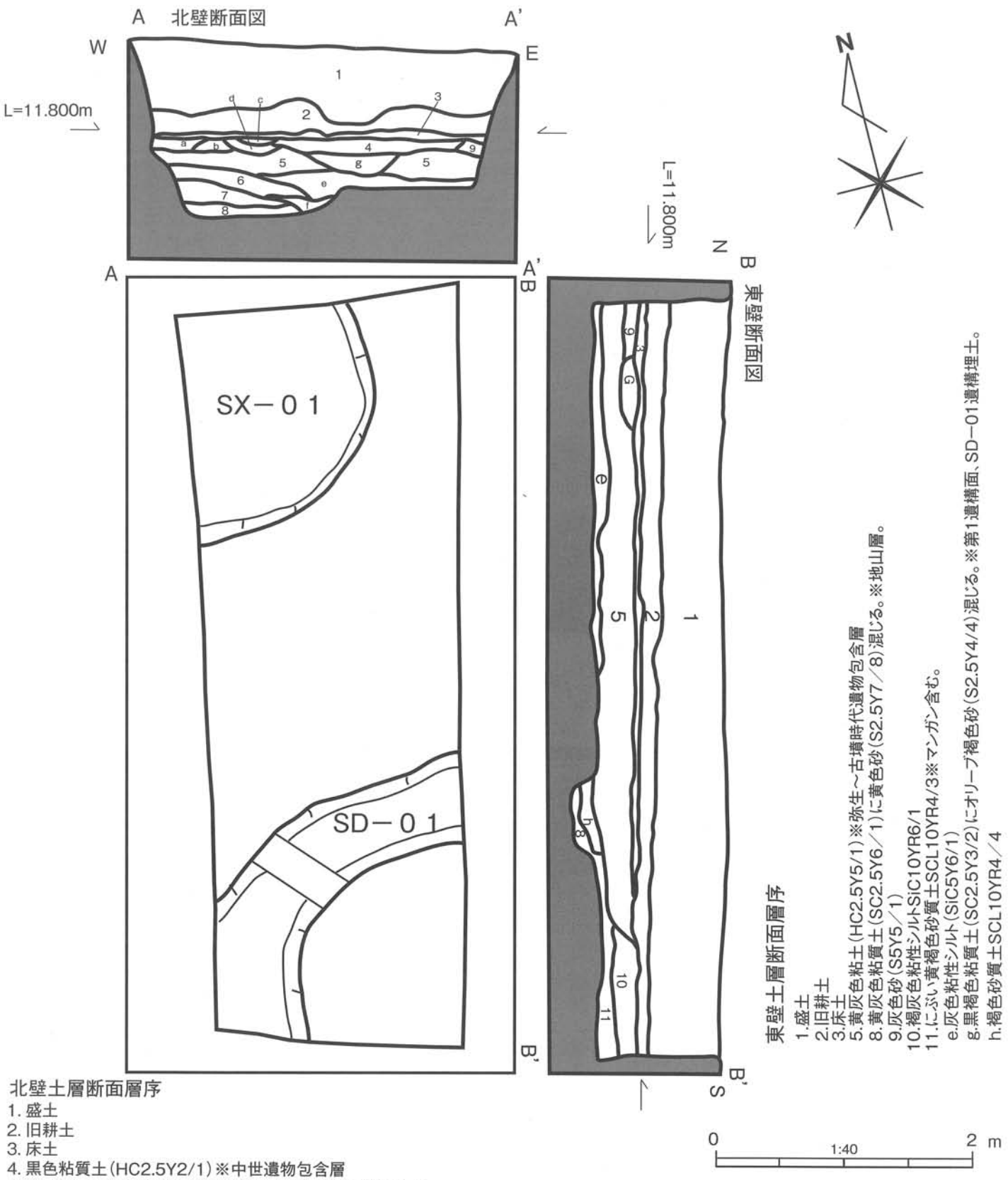
今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド（縦14×横36×奥行き56cm）に換算して1箱分である。その種類と内訳は、古墳時代の須恵器や平安時代の頃の須恵器や土師皿などの遺物が出土している。

まとめ

今回の調査から、第1遺構面では中世頃の生活遺構面を検出し、また、第2遺構面では弥生時代後期頃から古墳時代初頭にかけての生活遺構面を検出した。それぞれの時代において、集落を構成するうえで必要な各遺構が検出された。今後はこれらの成果を基に、既往の調査と照らし合わせて検討し、中条小学校遺跡の集落の歴史的背景をあきらかにしていきたい。



第14図　中条小学校遺跡（CJ08-4）　調査区配置図・第１遺構面平面図



東壁土層断面層序

1.盛土
2.旧耕土
3.床土
5.黄灰色粘土(HC2.5Y5/1)※弥生～古墳時代遺物包含層
8.黄灰色粘質土(SC2.5Y6／1)に黄色砂(S2.5Y7／8)混じる。※地山層。
9.灰色砂(S5Y5／1)
10.褐灰色粘性シルトSiC10YR6/1
11.にぶい黄褐色砂質土SCL10YR4/3※マンガン含む。
e.灰色粘性シルト(SiC5Y6/1)
g.黒褐色粘質土(SC2.5Y3/2)にオリーブ褐色砂(S2.5Y4/4)混じる。※第1遺構面、SD－01遺構埋土。
h.褐色砂質土SCL10YR4／4

北壁土層断面層序

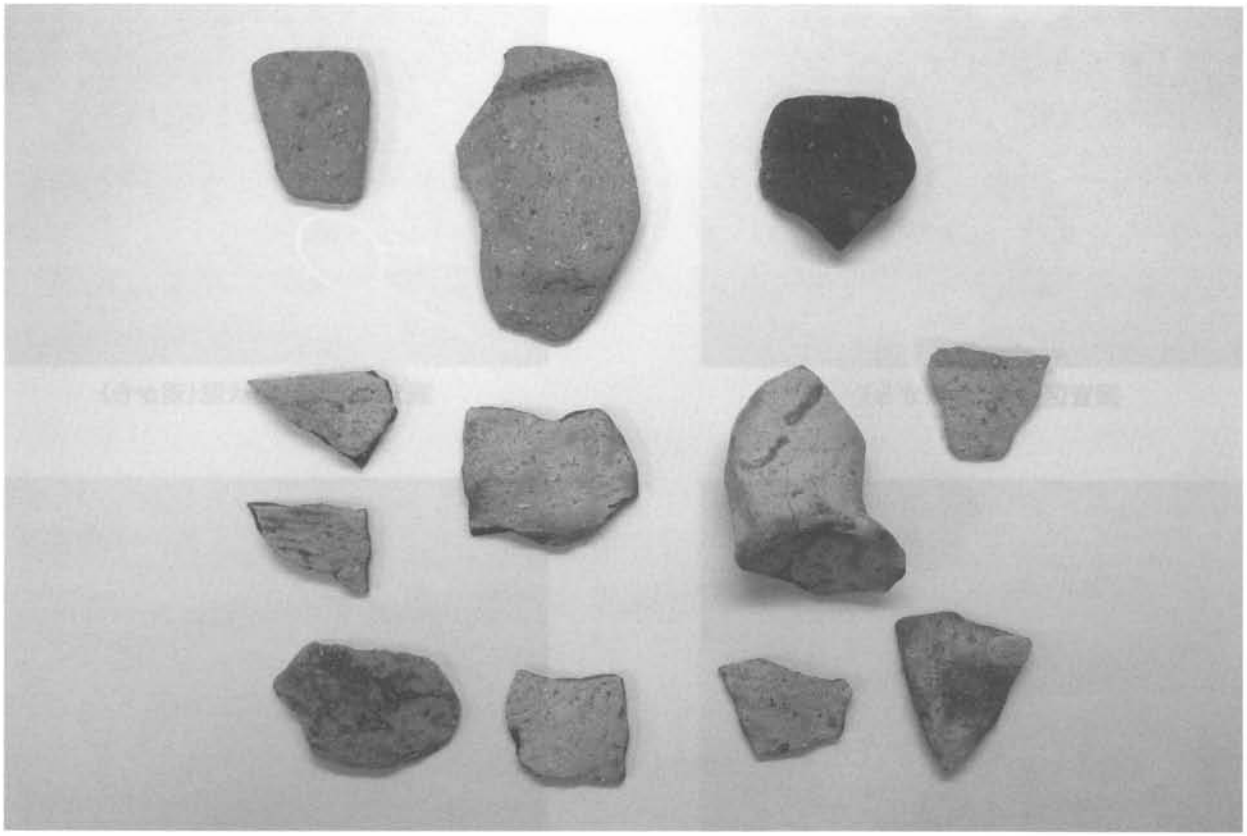
1. 盛土
2. 旧耕土
3. 床土
4. 黒色粘質土(HC2.5Y2/1)※中世遺物包含層
5. 黄灰色粘土(HC2.5Y5/1)※弥生～古墳時代遺物包含層
6. 灰色粘土(HC5Y4/1)にオリーブ色砂質土ブロック(SCL5Y5／6)が直径2cm 程混じる。※第2遺構面、SX－01遺構埋土上層。
7. オリーブ黒色粘質土(SCL5Y3／2)にオリーブ色砂質土　ブロック (SCL5Y5/6)が直径2cm程混じる。※第2遺構面、SX－01遺構埋土下層。
8. 黄灰色粘質土(SC2. 5Y6／1)に黄色砂(S2. 5Y7／8)混じる。※地山層。
9. 灰色砂(S5Y5／1)
a. 浅黄色粘土 (HC5Y7 ／ 3)
b. 灰色粘土(HC5Y6／1)
c. 灰色粘質土(SC7.5Y5/1)に灰色オリーブ色砂質土(SiCL7. 5Y5／3)混じる。
d. オリーブ黒色粘質土(SC7.5Y3/1)に暗オリーブ色砂(S5Y4／3)混じる。
e. 灰色粘性シルト(SiC5Y6/1)
f. 黒褐色粘質土(SC2.5Y3/2)に黄灰色粘性シルト(SiC2.5Y5/1 ブロック)で混じる。
g. 黒褐色粘質土(SC2.5Y3/2)にオリーブ褐色砂(S2.5Y4/4)混じる。※第1遺構面、SD－01遺構埋土。

第15図　中条小学校遺跡（CJ08-4）第2遺構平面図及び北壁・東壁土層断面図

第1遺構面　SP-01内　出土遺物

第1遺構面　SD-01内　出土遺物

第16図　中条小学校遺跡（CJ08-4）　出土遺物写真（1）



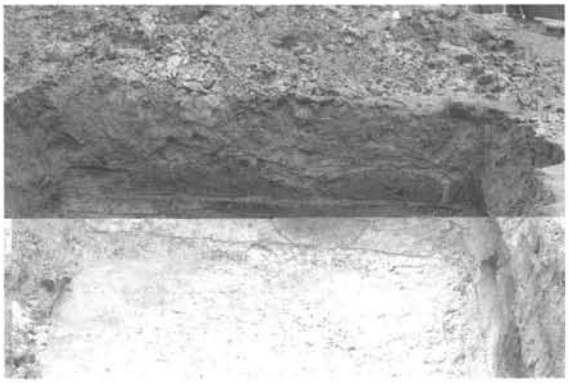
第1遺構面　SP-02内　出土遺物

第2遺構面　直上包含層内　出土遺物

第17図　中条小学校遺跡（CJ08-4）　出土遺物写真（2）

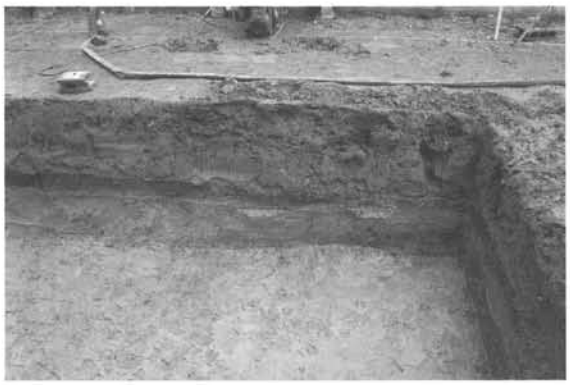
調査区全景(北東から)

第1遺構面完掘状況(南から)

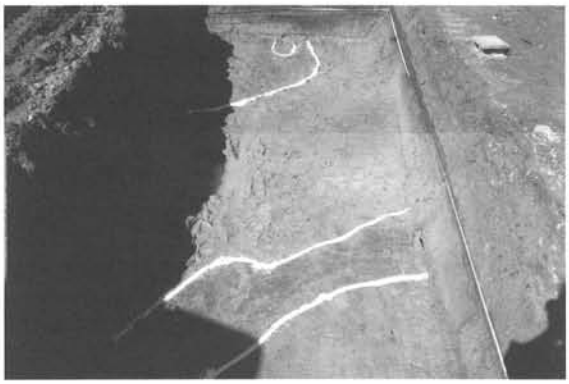


調査区北壁土層断面

調査区東壁土層断面・北部



調査区東壁土層断面・南部



第2遺構面検出状況(南から)

第2遺構面完掘状況(北東から)

第18図　中条小学校遺跡(CJ08-4)第1・2遺構面検出状況写真

耳原遺跡

所在地　茨木市耳原一丁目197－8
開発事業　専用住宅建設
調査期間　平成２０年１０月２２日～２３日
調査面積　１２㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果

第19図　調査位置図

耳原遺跡は、縄文時代晩期頃から中世頃にかけて広がる複合集落遺跡である。遺跡の広がる範囲は、耳原一丁目から同三丁目、南耳原二丁目にかけて東西約350m×南北約300mが遺跡の包蔵地である。当遺跡は市内の中央部のほぼ東側にあたり、茨木川左岸及び、安威川の右岸の二河川に挟まれた舌状の丘陵上に位置する。既往の調査の一例として、昭和55年度の名神高速道路開通に伴う発掘調査が挙げられる。この調査で、縄文時代晩期（滋賀里Ⅲ式・船橋式・長原式）のかめ（深鉢）棺墓が16基検出され、また石鏃が50点以上も出土している。また、平成に入ってからは同16年度の耳原遺跡の一次調査において、耳原三丁目地内にある耳原古墳と鼻摺古墳の中間地点に存在した丘陵地上で、6世紀後半頃から7世紀初期頃に築造したと考えられる「耳原西古墳」が新発見された。調査直前の環境としては、表土を除去する前には既に側壁と思われる花崗岩石の一部が目視できる状況であった。表土を除去すると天井石が後世に取り除かれており、２段目以上の側壁が石室内部に落ち込んでいる状況であった。なお、石室内部は既に盗掘された状況であり、内部の土をふるいにかけたところ、楕円形状の金製環１点とガラス小玉が約43点出土した。なお、金製環については観察したところひしゃげたような状況が見受けられる事から、本来は正円形だった可能性が考えられる。この事から、耳原古墳・鼻摺古墳と並んで古墳群の様相を示す新たな発見となった。

基本層序

基本層序については、第1層～第6層に大別される。層序は上層より順に、第１層は現代の盛土層で撹乱・造成盛土を含む層である。層厚は約1.1mを計る。第２層は、現耕作土である。層厚は、南及び北においては約20cm。東では、層厚は約5cmと南北と比べ一部削平の箇所がみられる。第３層は、現耕作土の床土である。褐灰色砂質土SC10YR5/1に黄褐色砂粒S10YR5/6が混じるものである。4層は、かなりの摩滅が見受けられるものであるが、中世頃の遺物を含む層が検出された。黄褐色粘質土SC2.5Y5/3で、中世遺物包含層である。層厚は概ね10cmを測り、ほぼ良好な堆積状況とみられるが、その下層において生活面は検出できなかった。5層は、弥生時代の遺物包含層である。層厚は概ね25cmを測り、良好な堆積状況とみられる。6層は、地山層である。

この層の上面において、弥生時代の生活面を検出している。明黄褐色砂礫SL10YR7/6である。

検出遺構

現GLより約－1.6mの層（第6層）の地山層上面において弥生時代の遺構を検出した事から、この面を調査の対象とする事とした。この生活遺構面において、ピット状遺構7基と土壙遺構1基、溝状遺構２条を検出した。溝状遺構では唯一遺物が出土したSD-01の構造であるが、検出されたレベルの高低差から北東より南西方向に走っている事が伺える。なお、この溝は調査区外（北東）に伸びる事から、その概要は詳しくは分からない。また、SP-01からも遺物は出土しており、その構造は径約10cmを測る。土壙遺構SK-01を切っている事から、同一面で検出された弥生時代の生活面において時期差あるいは時間差がみられるものと考えられる。

出土遺物

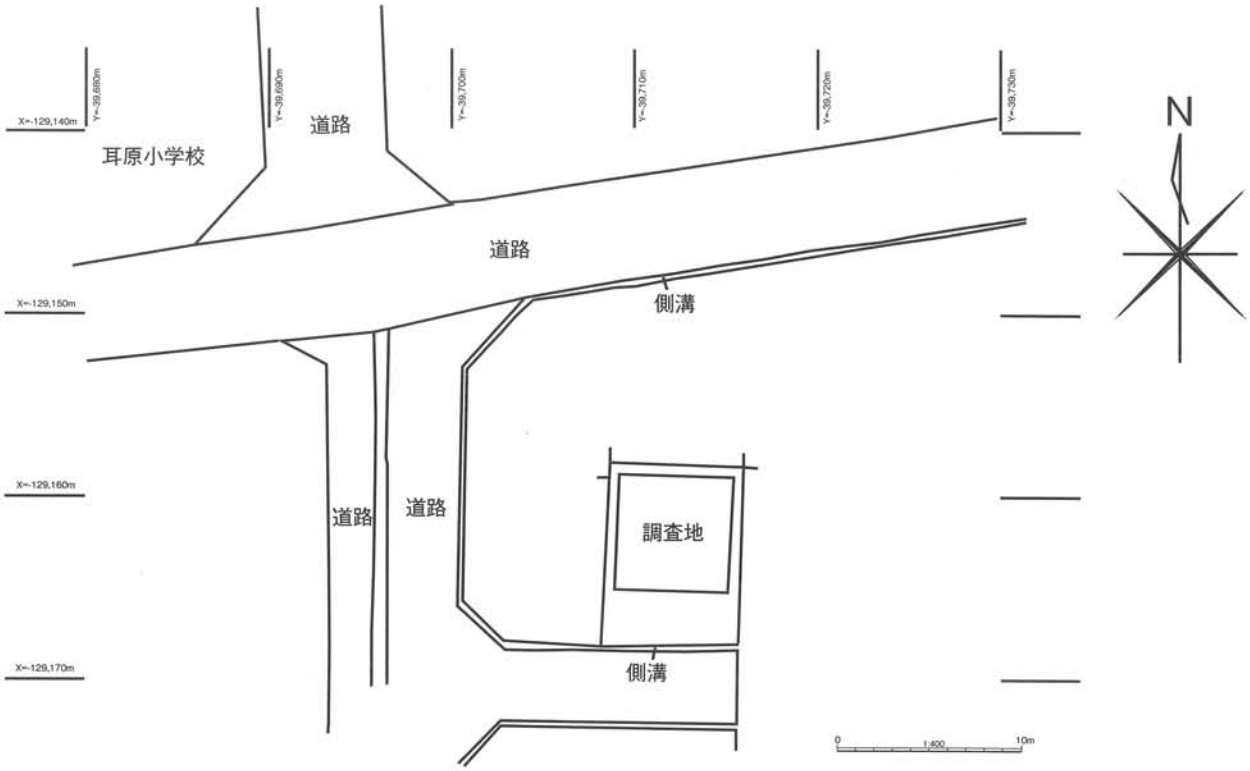
先述したように第4層では中世頃の土師器の細片が、また第5層及びSP-01、SD-01から、弥生時代の土器が出土している。但し、いずれの土器においても細片や摩滅したものであり、実測出来るようなものはなかった。

まとめ

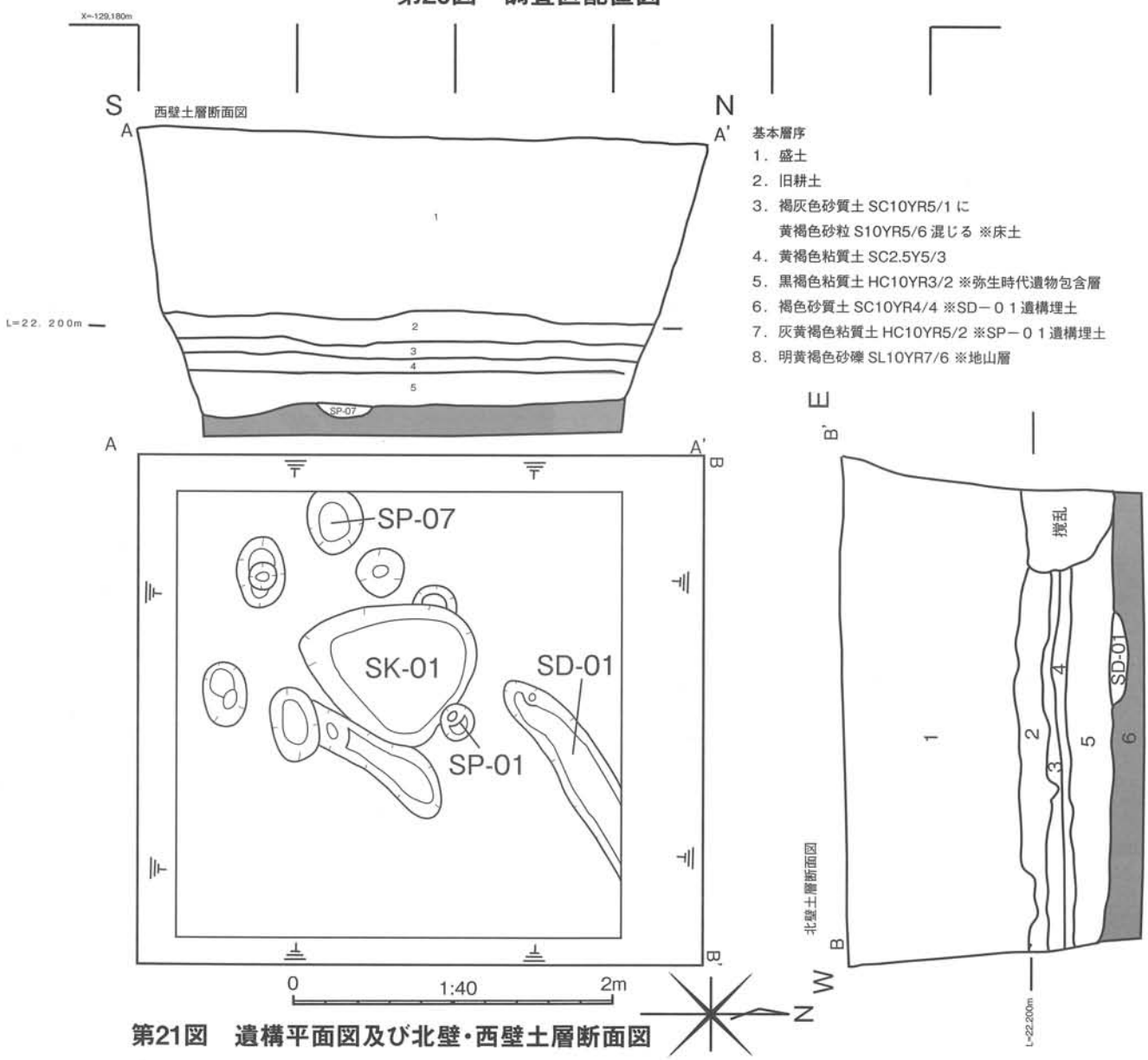
今回の調査から、弥生時代の生活遺構の一部を検出した。これらの成果を基に、今後は既往の調査と照らし合わせて、耳原遺跡の集落の歴史的背景を検討してあきらかにしていきたい。

参考文献

茨木市教育委員会『昭和57年度発掘調査概報』昭和58年3月
茨木市教育委員会『平成17年度発掘調査概報』平成18年3月

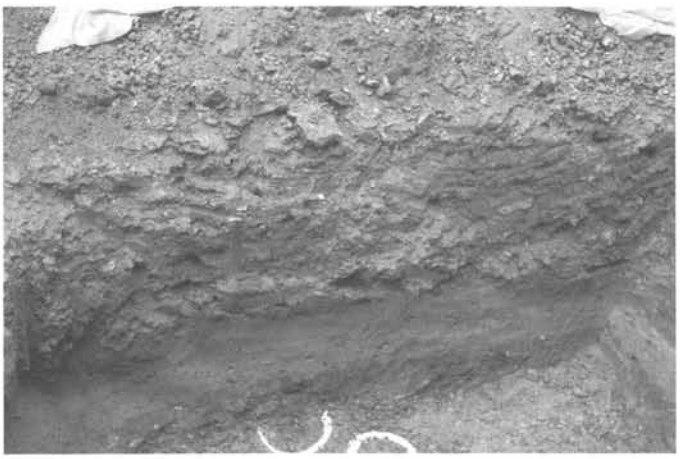


第20図　調査区配置図

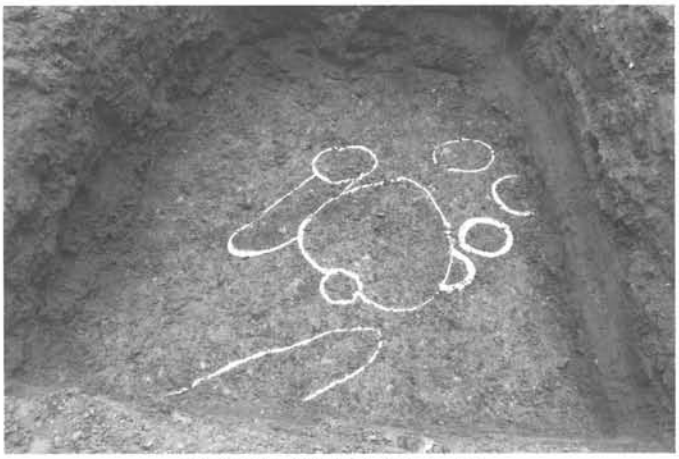


第21図　遺構平面図及び北壁・西壁土層断面図

調査地全景（北東から）



調査区西壁土層断面



遺構面検出状況（北から）

遺構完掘状況（北から）

調査区北壁土層断面

第22図　耳原遺跡（MH08-1）遺構検出状況

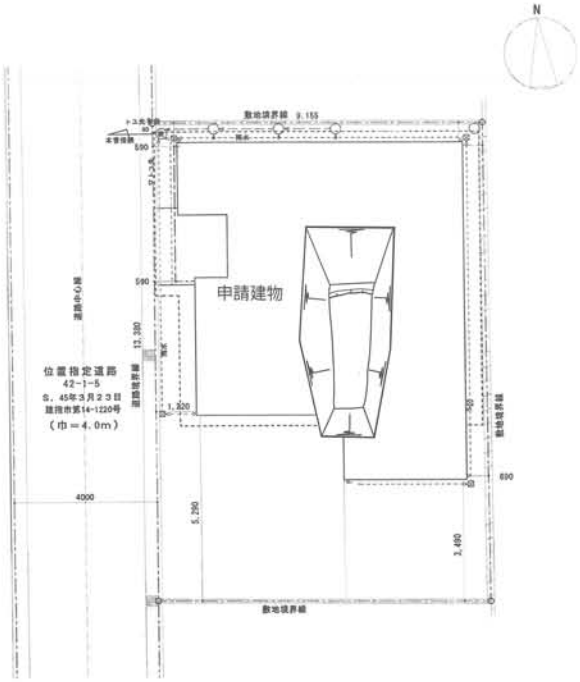
倍賀遺跡

所 在 地　茨木市春日四丁目228－5・228－6
調査原因　個人住宅新築工事
調査期間　平成20年10月30日
調査面積　約15㎡
調査担当　中東正之
調査結果

第23図　調査位置図

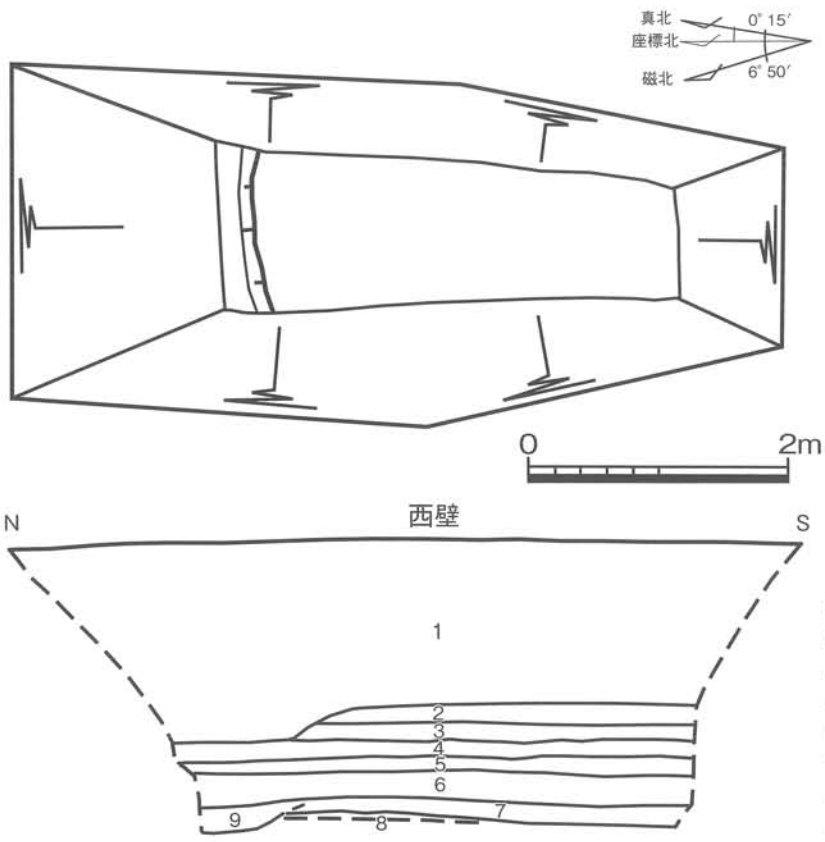
経過　調査地は、倍賀遺跡の周知の包蔵範囲の南東部にあたる。当地域での既往の発掘調査では、平成三年度に当地の北西約200mの住友セメント跡地(現コバショウ)及びその南隣のマンション(マウントビュー)、そして平成五年度に当地の西約50mのマンション(リヴェール春日)において、いずれも弥生時代中期の方形周溝墓や古墳時代後期の集落跡などが検出されている。また、当地の西向の個人住宅における試掘調査でも包含層の存在が確認されているが、東海道本線を手前にして包蔵範囲は途切れ、線路向こうには上中条遺跡が迫る。調査方法は、堆積土が軟弱で地山が深いことを考慮して、隣接建物への控えと排土置き場を確保した長さ6m、幅約2.5mの調査区を設定し、現地表面下2mの地山層付近までバック・ホーで掘り下げ、人力による検出作業を実施した。検出面積は、崩落対策により4㎡程度と狭小なものとなった。

遺構と遺物　現地表面は標高13.6mを測る。層序は、上層より現代盛土層約1.2m、旧耕作関連土である暗灰色シルト・暗灰色砂質土・緑灰色粘質土・緑灰色粘土が各0.1～0.15m、包含層である褐灰色粘土が約0.2m、包含層が混浸して地山層から分化(土壌化)しつつある灰黄褐色粘土が約0.15m、地山層の黄褐色粘土となる。検出面である地山層の標高は11.5m付近を測る。当初は灰黄褐色粘土上面を検出面としたが、判然としないために地山層まで掘り下げた。検出面では地山がやや起伏しているのを認めたが、狭小なため傾向は判断できなかった。遺構は、検出面北端で溝状の肩部を検出したが、調査区外に至るため全容は不明である。東西1.3m以上、南北0.3m以上、深さ0.1m程を測るが、断面を観察すると灰黄褐色粘土上面から切り込んでいるのが確認できた。従って南北0.5m以上、深さ0.25m程度となる。埋土の暗褐色粘土からは遺物は出土しなかった。遺物は、包含層より土師質の土器細片がわずかに出土したが、時期を比定できるものはなかった。



第24図　調査区配置図

小結　当地においても遺構、包含層が良好に存



第25図　遺構平断面図

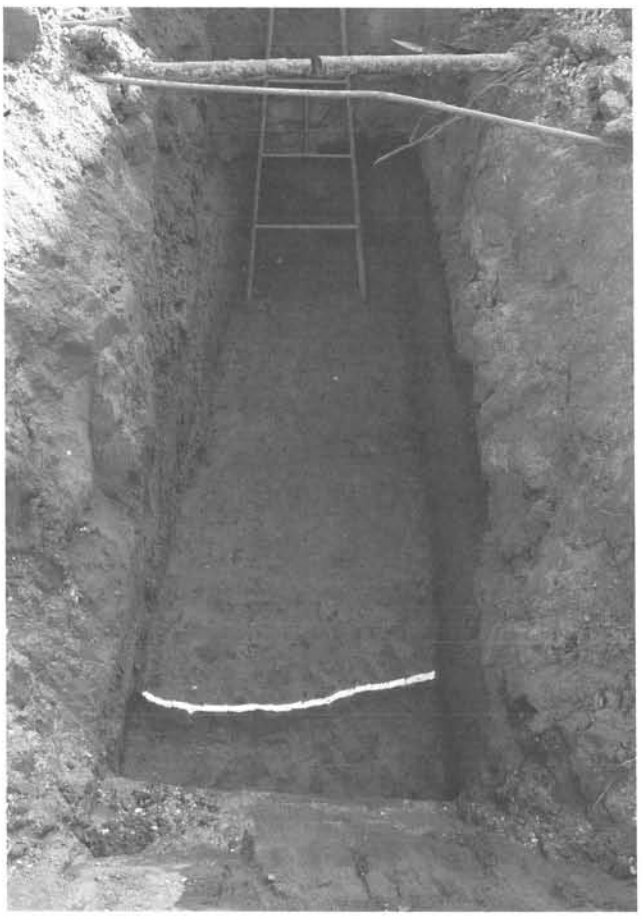
在していることを確認したが、その性格や時期を判断するまでには至らなかった。しかし、当地域で弥生時代中期の墓域と重複して検出されることが多かった古墳時代後期の集落については、東海道本線を挟んで南側の上中条遺跡においても確認されており、当該期の集落域が両遺跡を包括する範囲の広がりをみせる可能性がある。

（中東正之）

1　現代盛土層
2　暗灰色シルト
3　暗灰色砂質土
4　緑灰色粘質土
5　緑灰色粘土
6　褐灰色粘土（包含層）
7　灰黄褐色粘土
8　黄褐色粘土（地山層）
9　暗褐色粘土（遺構埋土）

第26図　西壁面検出状況

第27図　実測作業状況



第28図　遺構面完堀状況

郡遺跡

所在地　茨木市上郡一丁目493－5
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成21年1月19・20日
調査面積　12㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果

第29図　調査位置図

郡遺跡は、弥生時代前期から鎌倉時代頃にかけて営まれた集落遺跡である。遺跡の包蔵地範囲は南北に約1.2km×東西に約0.7kmと、南北に長く広がりをみせている。その範囲は北から、上郡一丁目、郡三丁目、五日市緑町、東は、畑田町四丁目、南は、春日五丁目、西は上穂積二～四丁目の範囲である。地形の様相としては、標高約15mの千里丘陵から派生した丘陵部の先端付近に位置しており、茨木川右岸にあたる地域である。なお、本調査地のある上穂積一丁目の旧地籍は、東町となる。

周辺の遺跡には、北に隣接している弥生時代中期頃から中世頃にかけての集落遺跡である中河原遺跡や、奈良時代頃から中世にかけての集落跡である五日市遺跡が存在する。この他には、北西に隣接する弥生時代中期頃の方形周溝墓や奈良時代前期頃の建物と考えられる、根石と礎板が施された掘立柱建物跡が検出された郡山遺跡や、南東には弥生時代頃から始まる倍賀遺跡が存在する。南に接するところでは、同じく弥生時代頃から始まる春日遺跡や、南西に接する地域においては、茨木市内の古代の四郷の一つであり古代寺院跡である穂積廃寺跡がある。なお、これらの６つの遺跡は、今回の郡遺跡の包蔵地範囲に接するように存在している。

郡遺跡の既往の調査事例として、今回の調査地の西隣りにおいて昭和57年度の調査では西隣りの場所で弥生土器の破片を含む遺物包含層が検出されており、その下層の地山層において柱穴遺構が検出されている。また、昭和52年度に茨木市立畑田小学校設立の際に、本発掘調査が実施されている。平成に入ってからの直近の調査では、生涯学習センター設立の事前の本発掘調査において弥生時代中期から鎌倉時代の遺構が検出されている。この調査では、弥生時代中期頃の方形周溝墓27基が検出されている。また、この調査区の南東側に隣接する倍賀遺跡からも同時期のものと考えられる方形周溝墓が検出されておりその総数は80基を超えるといわれている。この事から、郡遺跡の包蔵地の南東隅から倍賀遺跡付近にかけての付近一帯は、方形周溝墓群の墓域となる様相がみられるものである。また、この他には古墳時代の竪穴住居跡20棟、中世の建物跡などが検出されている。

なお、今回の調査地に隣接する中河原遺跡において平成20年2月の調査では、方形周溝

墓の周溝の一端が検出されており、その周溝の中層より把手付台付鉢がほぼ完形の状態で出土している。この土器の時期は弥生時代中期後半頃（IV-3様式）のもので、摂津地域では数少ないものとされる。なお保存状態はとても良く、朱が所々残存している状況であった。

今回の調査においては、主に弥生時代後期頃から古墳時代前期頃の生活面を調査の対象とした。なお、調査の掘削箇所については、業者との協議を経て東西に4m×南北に3mのトレンチを設定し、調査の対象とする面積を12㎡とする事とした。

基本層序

基本層序については、第1層～第7層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第1層は現代の撹乱を含む造成盛土の層である。層厚は、全体を通して概ね1m30cmを計る。第2層は、旧耕作土である。層厚は概ね10～20cmであるが、北壁においては東半部が第1層の造成盛土による撹乱を受けており、削平されている状況であった。第3層においてはオリーブ黒色粘土層HC7.5Y2/2で、層厚は西壁では概ね40cmを計るが、北壁では概ね20cmと西壁に比べやや希薄に映る。第4層においては、灰色砂質土CL7.5Y4/1で西壁及び北壁の両方の土層において概ね一律の堆積の様相を示しており、層厚は約10cmを測る。第5層はオリーブ黒色粘質土SC10Y3/1で、古代の土器を含む層である。層厚は概ね12cmを計るが、調査区の北壁土層断面中にのみ検出され、西壁土層断面中においては検出できなかった。第6層は、弥生時代前期頃の土器を含む層が検出された。黒褐色粘質土SC10YR2/2の層で、弥生時代後期頃の遺物包含層である。層厚は、西壁土層断面中においては概ね15cmを測るが、北壁土層断面においては第5層の古墳時代前期頃の遺物包含層の流入が見受けられ、それによってこの第6層は一部削平された事が分かる。第7層は、地山層である。この生活遺構面上面において、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺構を検出している。なお、この層の土色は黄褐色粘質土SC10YR5/6である。

検出遺構

今回の調査において検出された遺構は、柱穴遺構5基、溝状遺構1条、土壙3基である。存続時期については、出土した遺物から弥生時代後期頃から古墳時代前期頃に比定できる。今回の調査で検出された遺構において一番規模の大きいSK-01（土壙）であるが、検出長南北幅約1m、東西幅約85cmの規模を測る。また、このSK-01以外に、土壙を2基検出している。この2基の土壙はそれぞれ調査区の外に広がりをみせる為、全体の規模は分からないが検出状況から見るとSK-01とほぼ類似した形状・規模が推定できるものと思われる。なお、調査区の西側から検出されたSK-03は、SK-01と同様に擂り鉢状の底においてピット状遺構が検出された。これらのピット状遺構は土壙内の東側から検出されており、かつ形態的にSK-01に類似した点がみられる事から、造成段階において何らかの意図的なものが感じられるものである。なお、SK-02内の西側から検出されておらず、SK-01及びSK-03と同様に調査区外の東側に存在する可能性がある。このSK-01とほぼ同様の規模と考えられる。SD-01は、上幅約30cm、下幅約20cm、断面形態はU字形を呈する。なお、このSD

-01はSK-01と切り合っており、先にSD-01が造られ、後にSK-01が造られたものと考えられる。この事から検出面において、時期差あるいは時間差的な構造物の造営がみられる。

出土遺物

今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド（縦14×横36×奥行き56cm）に換算して1箱分である。その種類と内訳は、弥生土器や古墳時代から中世頃の土師皿などの遺物が出土している。そのほとんどは、摩滅している状態で出土している。

まとめ

今回の調査から、同一面において弥生時代後期頃から古墳時代前期頃の遺構が検出された。この事から、複合集落遺跡の様相が垣間見える事となった。また、土壙3基が類似した形状で検出されている事から、土壙群の様相の一端が伺える結果にもなった。

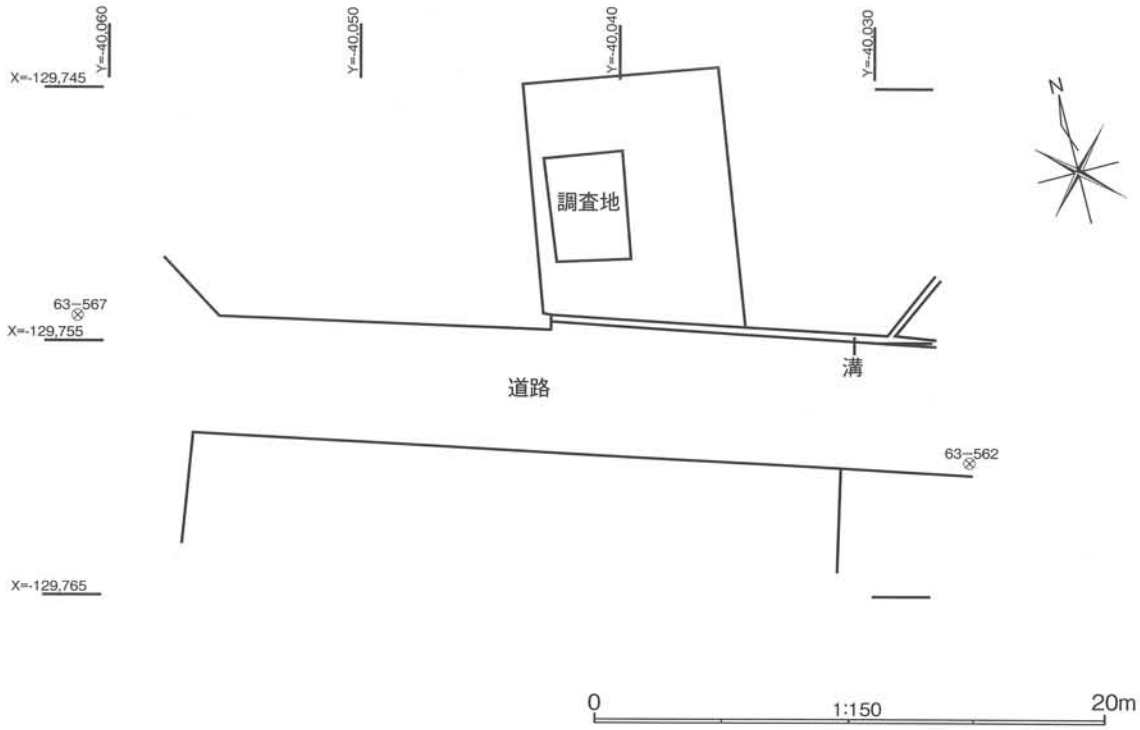
これらの成果を基に今後は既往の調査資料等と照らし合わせて、郡遺跡の集落の歴史的背景を検討してあきらかにしていきたい。

参考文献

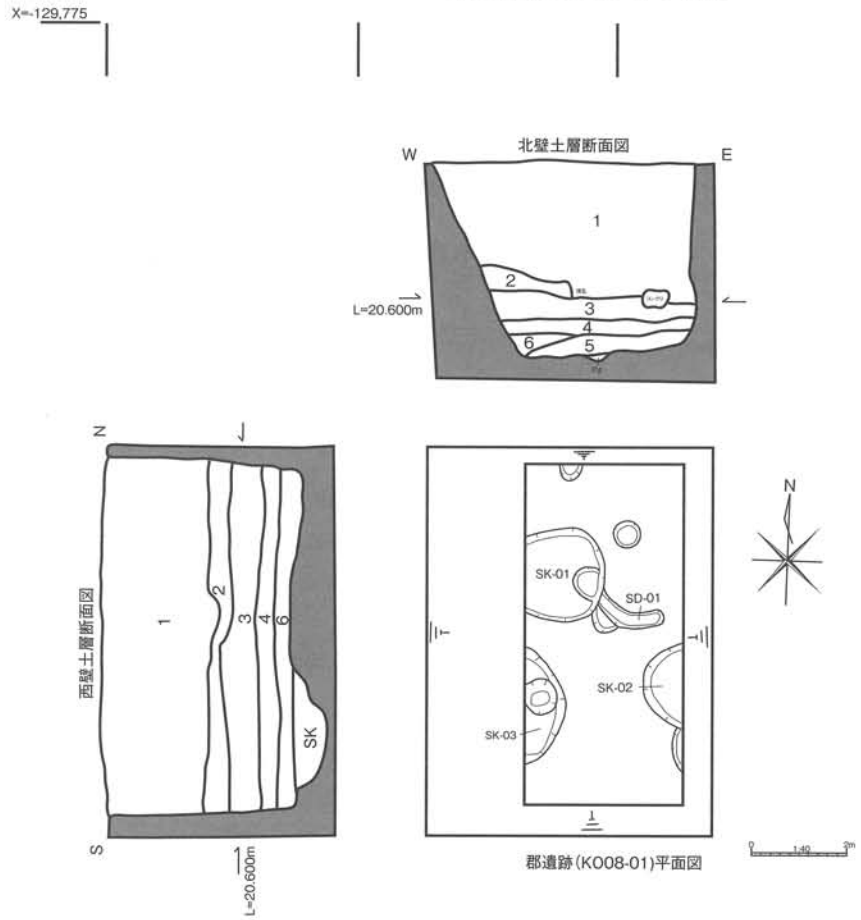
弥生土器の様式と編年 －近畿編－ 寺沢薫 他 平成２（1990）年11月26日

新修 茨木市史 第八巻 史料編 地理 茨木市市史編纂委員会 茨木市　平成16（2004）年3月31日

郡遺跡発掘調査概要報告書　茨木市立生涯学習センター建設に伴う発掘調査概要報告
茨木市教育委員会 平成17（2005）年3月31日



郡遺跡(KO-08-1) 平板図

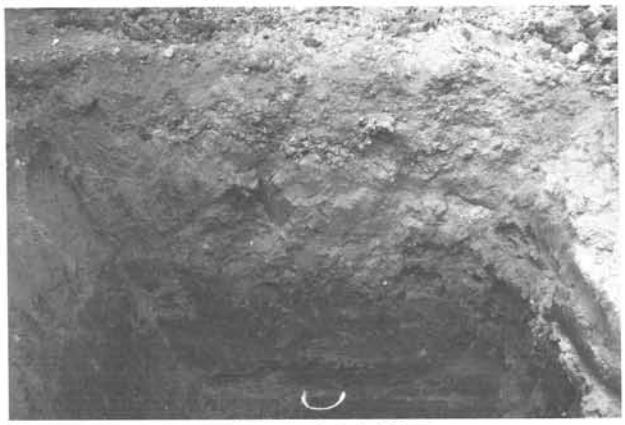


基本層序
1.盛土
2.旧耕土
3.オリーブ黒色粘土HC7.5Y2/2
4.灰色砂質土CL7.5Y4/1
5.オリーブ黒色粘質土SC10Y3／1　※古墳時代遺物包含層
6.黒褐色粘質土SC10YR2／2　※弥生時代遺物包含層
7.黄褐色粘質土SC10YR5／6　※地山層

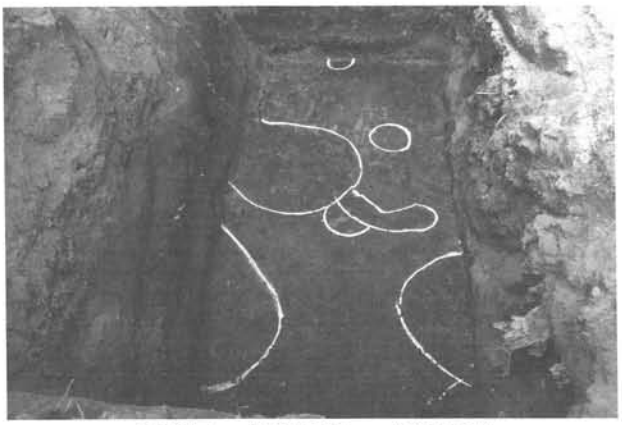
第30図　郡遺跡（KO08-1）　平板図、平・断面図

調査地全景（南西より）

調査区西壁土層断面



調査区北壁土層断面



遺構面、検出状況　（南より）

遺構完堀状況（西より）

測量作業風景　（南より）

埋め戻し、作業風景　（南東より）

第31図　郡遺跡（KO08-1）発掘作業風景

春日遺跡

所在地　茨木市春日三丁目 101-18
開発事業　個人住宅建設事業
調査期間　平成 21 年 2 月 24～26 日
調査面積　24.9 ㎡
調査担当　宮本　賢治
調査結果

第32図　調査位置図

春日遺跡は、千里丘陵から延びる低位段丘と茨木川が形成した扇状地上に立地する集落遺跡である。遺跡の包蔵地範囲は、南北に約0.6km×東西に約0.7kmと、やや東西方向に長く広がる。その範囲は、北から春日一～三・五丁目、上穂積二丁目、中穂積二丁目である。当遺跡の周辺の遺跡には、弥生時代中期頃から始まる郡遺跡があり、北東に接する地域では倍賀遺跡がある。接する形ではないが北西には古代寺院跡と目されている、奈良時代から始まる穂積廃寺跡が、また西方には見付山東遺跡が存在する。また、東方には弥生時代上中条遺跡が存在する。地形の様相としては、標高約15mの千里丘陵から派生した丘陵部の先端付近に位置しており、茨木川右岸にあたる地域である。なお、本調査地のある春日三丁目の旧地籍は、一ノ坪となる。

周辺の遺跡には、北に隣接している弥生時代中期頃から中世頃にかけての集落遺跡である中河原遺跡や、奈良時代頃から中世にかけての集落跡である、五日市遺跡が存在する。この他には、北西に隣接する弥生時代中期頃の方形周溝墓や奈良時代前期頃の建物と考えられる、根石と礎板が施された掘立柱建物跡が検出された郡山遺跡や、南東には弥生時代頃から始まる倍賀遺跡が存在する。南に接するところでは、同じく弥生時代頃から始まる春日遺跡や、南西に接する地域においては、茨木市内の古代の四郷の一つであり古代寺院跡である穂積廃寺跡がある。なお、これらの６つの遺跡は、今回の郡遺跡の包蔵地範囲に接するように存在している。

郡遺跡の既往の調査事例として、今回の調査地の西隣りに隣接している所において弥生土器の破片を含む遺物包含層が検出されており、その下層の地山層において柱穴遺構が検出されている。その後、昭和48年に名神高速道路のインターの南付近において、府営住宅建設に伴う発掘調査が実施されている。昭和52年度に茨木市立畑田小学校設立の際に、本発掘調査が実施されている。また、平成に入っての直近の調査では、生涯学習センター設立の事前の本発掘調査において弥生時代中期から鎌倉時代の遺構が検出されている。この調査では、弥生時代中期頃の方形周溝墓27基が検出されている。また、この調査区の南東側に隣接する倍賀遺跡からも同時期のものと考えられる方形周溝墓が検出されており、その

総数は80基を超えるといわれている。この事から、郡遺跡の包蔵地の南東隅から倍賀遺跡付近にかけての付近一帯は、方形周溝墓群の墓域となる様相がみられるものである。また、この他には古墳時代の竪穴住居跡20棟、中世の建物跡などが検出されている。

今回の調査においては、主に弥生時代後期から古墳時代と生活面を調査の対象とした。なお、調査の掘削箇所については、業者との協議を経て調査区トレンチを７箇所（1～7トレンチ）設定して、調査の対象とする面積を24.9㎡とする事とした。

基本層序

基本層序については、第1層～第4層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第1層は現代の撹乱を含む造成盛土の層である。層厚は、調査区の西壁土層断面（1トレンチ及び2トレンチ。以後、西壁土層断面に統一する事とする。）においては、概ね45cmを計る。また、同調査区の南壁土層断面中（1トレンチ及び4トレンチ、5トレンチ。以後、南壁土層断面に統一する事とする。）においては、概ね40cmを測る。第2層は、中世遺物包含層に相当する。本調査区周辺の既往の調査地では、付近一帯において旧耕作土が検出されている事から当地においても存在していたものと思われるが、後世の削平を受けたものと考えられ今回の調査では検出できなかった。層厚は調査区の西壁土層断面においては、概ね10～20cmを測る。また、同調査区の南壁土層断面においては、概ね10cm程であり、西壁と比べやや希薄に映る。第3層においては、オリーブ褐色粘質土SC2.5Y4/4に黄灰色砂質土ブロックSCL2.5Y5/1の混濁土の土質を持つ、古代の遺物包含層である。西壁土層断面中においては、層厚は概ね5cmを計る。調査区の西壁土層断面においては、層厚は概ね3cmと希薄に映る。なお、4トレンチ及び5トレンチにおいては、第3層目は後世（中世頃）の削平を受け、消滅していた。第4層においては、同調査区の西壁土層断面においては、黄色粘土の地山層に相当する。この面において、古代の遺構を検出した。

検出遺構

今回の調査において検出された遺構は、古墳時代生活面においてピット状遺構19基、溝状遺構1条を検出した。また、中世生活面においては、ピット状遺構2基、土壙遺構3基、溝状遺構1条を検出した。次に、調査区毎に検出された遺構を順にみていく事とする。調査区の南西隅に設定した1トレンチは、東西約2.6m×南北約1.6mの4.16㎡である。検出された遺構は、古墳時代頃のピット状遺構6基である。これらの遺構のいくつかは、切り合いがみられる事から造営に際してはある程度の時期差が考えられる。ピット状遺構の規模は、直径20～30cm程であった。2トレンチは1トレンチの北隣りの調査区で、東西約2m×南北約1.5mの3㎡である。検出された遺構は、古墳時代頃のピット状遺構5基と溝状遺構1条である。それぞれの遺構の規模であるが、ピット状遺構は小さいもので直径10cm、大きなもので直径30cm程を測る。溝状遺構は、検出レベル高から測定すると北から南に走る。但し、調査区トレンチの西側に広がりをみせる為に、全体の様相は掴めなかった。なお、この溝状遺構の検出長は、南北方向に75cmを測る。3トレンチは、2トレンチの北隣り

の調査区で、東西約1m×南北約2mの2㎡である。検出された遺構は、古墳時代頃のピット状遺構3基である。遺構の規模は、直径20～30cmと1トレンチで検出されたそれと類似した規模・形状のものである。4トレンチは1トレンチの東隣りの調査区で、東西約1.7m×南北約2.6mの4.42㎡である。検出された遺構は、中世頃のピット状遺構1基と土壙遺構3基、溝状遺構1条である。この4トレンチでは、古墳時代の包含層及び遺構は中世頃の削平を受けたものと考えられる。この調査区で検出された遺構の規模であるが、今回の調査で最も大きな遺構にSK-01が挙げられる。東西方向の直径95cm、南北に60cmを測るものである。5トレンチは4トレンチの東隣りの調査区で、東西約2m×南北約2.8mの5.6㎡である。検出された遺構は、中世頃の土壙遺構1基である。6トレンチは5トレンチの北隣りの調査区で、東西約2.3m×南北約1.5mの3.45㎡である。検出された遺構は、古墳時代頃のピット状遺構1基である。この7トレンチは6トレンチの北隣りの調査区で、東西約2.2m×南北約1mの2.2㎡である。検出された遺構は、古墳時代頃のピット状遺構4基である。

以上の事から、古墳時代の生活面においては、1、2、3、6、7トレンチからピット状遺構19基、溝状遺構1条が検出された。また、中世頃の生活面においては、4、5トレンチからピット状遺構2基、土壙遺構3基、溝状遺構1条が検出された。

出土遺物

今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド（縦14×横36×奥行き56cm）に換算して1箱分である。その種類と内訳は、弥生土器や古墳時代から中世頃の土師皿などの遺物が出土している。そのほとんどは、摩滅している状態で出土している。

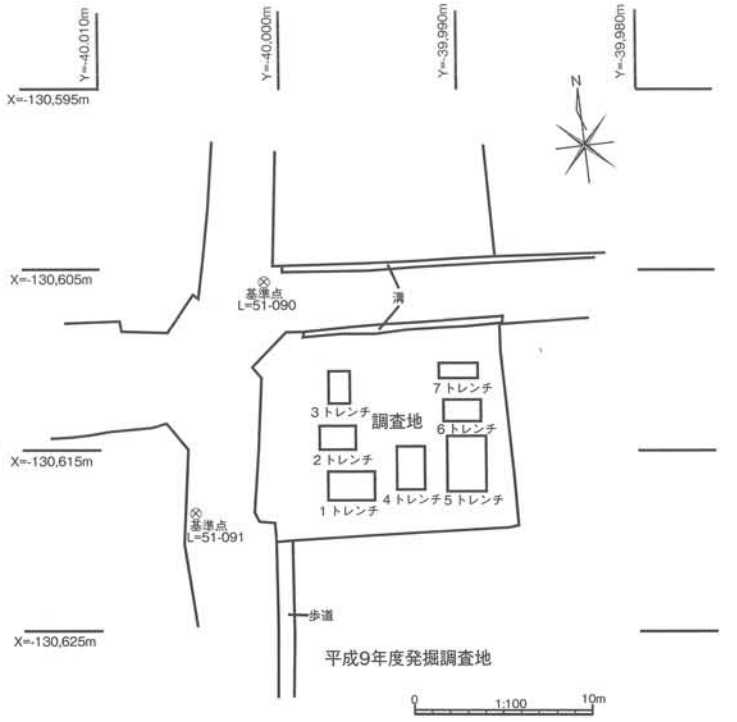
まとめ

今回の調査から、各トレンチにおいて弥生時代後期頃から中世頃の遺構が検出された。この事から、この地において弥生時代から、中世、そして現代へと連綿として人々が生活してきた様相がみられる結果となった。

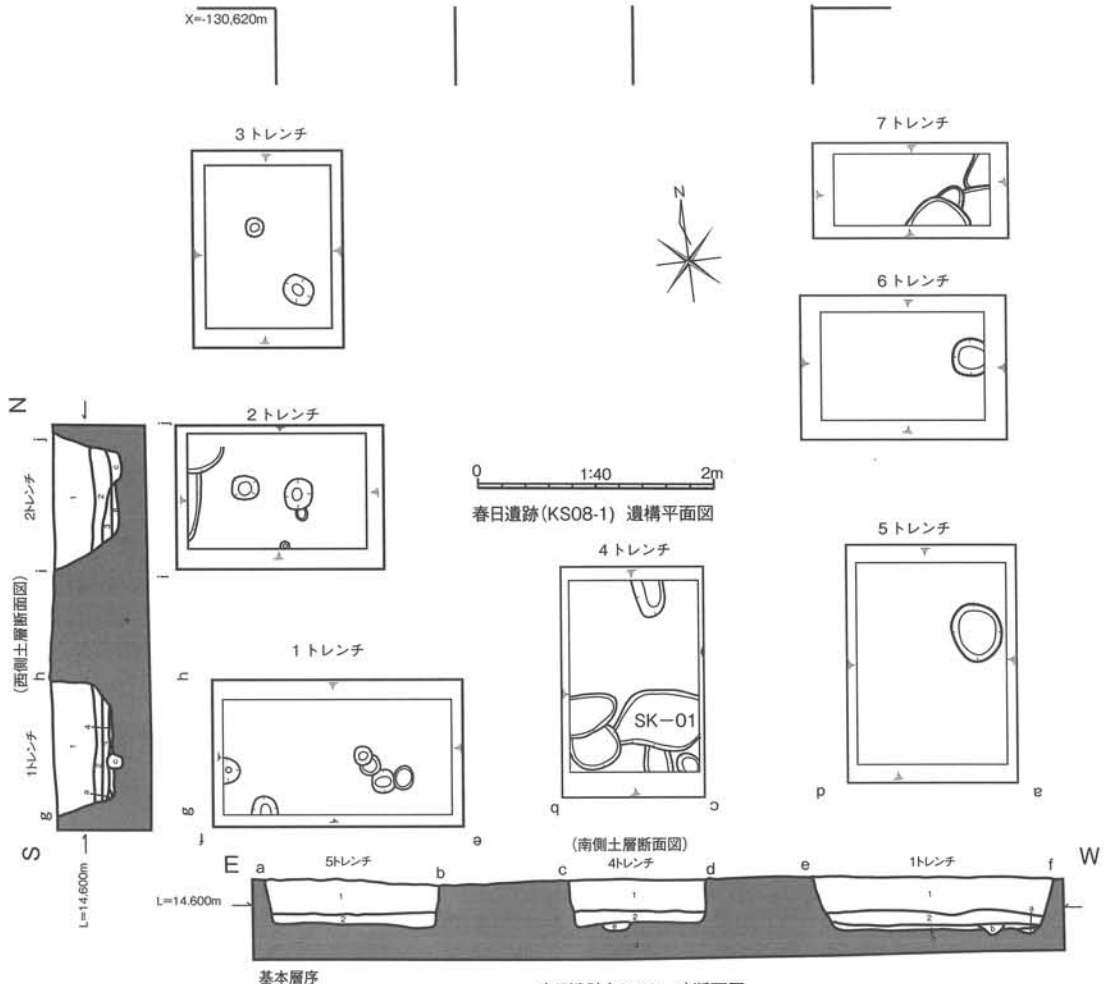
これらの成果を基に今後は周辺の既往の調査資料等と照らし合わせて、春日遺跡の集落の歴史的背景を検討してあきらかにしていきたい。

参考文献

新修　茨木市史　第八巻　史料編　地理　茨木市市史編さん委員会　茨木市
平成16（2004）年3月31日



春日遺跡(KS08−1)平板図



春日遺跡(KS08−1) 遺構平面図

春日遺跡(KS08−1)断面図

基本層序

1．盛土

2．灰色粘質土 SC5Y4/1 に暗オリーブ色砂粒 S5Y4/3 混じる　※中世遺物包含層

3．オリーブ褐色粘質土 SC2.5Y4/4 に黄灰色砂質土ブロック SCL2.5Y5/1 混じる　※古墳時代遺物包含層

4．淡黄色粘土 LS10YR7/8 に灰白色砂質シルト SL10YR8/2 混じる　※地山層

a．暗灰黄色砂質土 SCL2.5Y5/2　※古墳時代、ピット状遺構

b．黄灰色粘質土 SC2.5Y4/1　※古墳時代、ピット状遺構

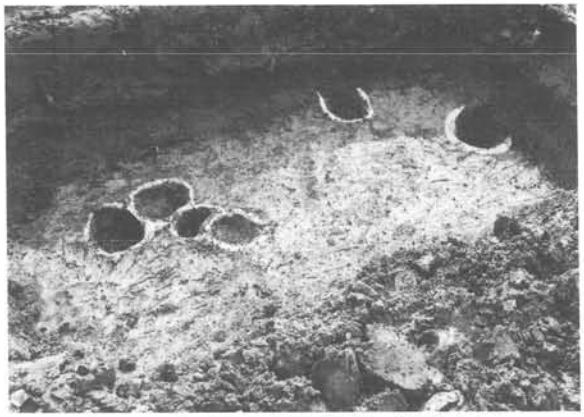
c．黒色粘質土 SC2.5Y2/1　※古墳時代、ピット状遺構

d．灰色細砂 S5Y5/1　※中世、溝遺構

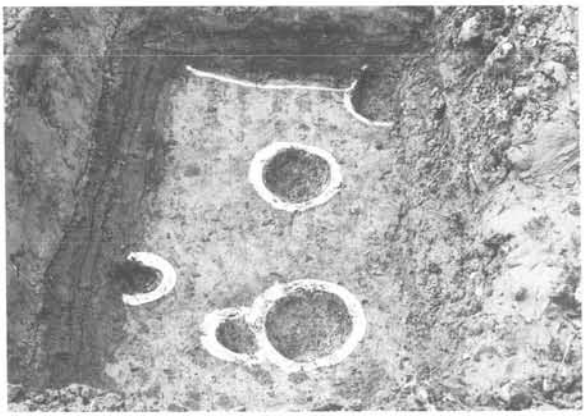
e．黒褐色粘質土 SC10YR3/1　※古墳時代、ピット状遺構

0　1:40　2m

第33図　春日遺跡（KS08-1）平板図、平・断面図

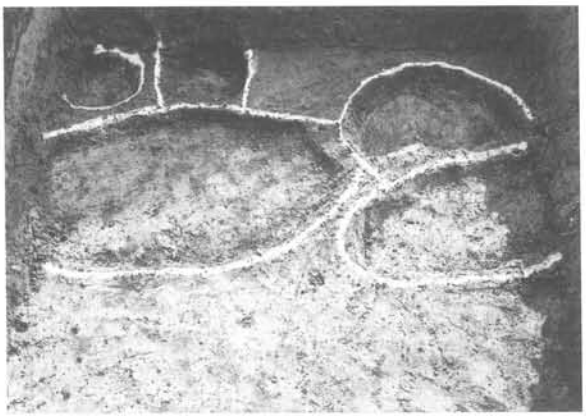


1トレンチ　遺構検出状況（北東より）



2トレンチ　遺構検出状況（東より）

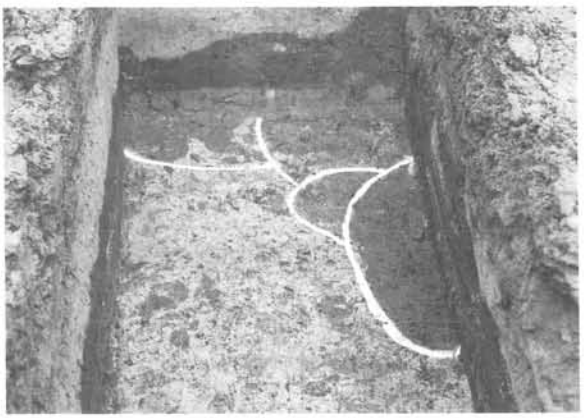
3トレンチ　遺構検出状況（東より）



4トレンチ　遺構検出状況（北より）

5トレンチ　遺構検出状況（北西より）

6トレンチ　遺構検出状況（北西より）



7トレンチ　遺構検出状況（西より）

調査区全体、作業風景（北西より）

第34図　春日遺跡（KS08-1）発掘調査風景

安威三丁目確認試掘調査（安威古墳群隣接地）

所 在 地　茨木市安威３丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　平成 20 年 11 月 11 日
調査面積　20 ㎡
調査担当　黒須　靖之
調査結果

今回の確認調査は対象となる敷地面積が3,500㎡で、埋蔵文化財包蔵地外においてトレンチを５箇所設定して試掘調査を実施した。

周辺の包蔵地は北側に安威古墳群が隣接しており、当該地は古墳群が展開する山の尾根筋にあたることから、古墳群の一部に該当する可能性が高いと推測された。また、東側の谷筋や南側の緩斜面では、安威城跡があったとされ、西側は安威寺跡が 存在する。

これまでの周辺における発掘調査事例は南に300ｍ程離れた安威城跡で唯一実施されており柱穴・井戸・土坑等の近世集落（安威村）が確認されている。また、出土遺物には近世の陶磁器類や瓦のほかに少量の須恵器が出土している。

今回の調査地は、安威古墳群に隣接する南側に東西方向で細長く伸びていることから、東西軸でトレンチを設定した。調査地の現状は、東半分が竹林となっており、西半分は、細石敷きの駐車場となっていた。トレンチは竹林を撤去した後に、東から西側に向かって順次設定し、トレ

第35図　調査位置図

第36図　トレンチ配置図

ンチ１・２は竹林部分に、３～５は駐車場部分である。なお、東側に隣接する道路建設予定地において前年度に古墳を想定しての長いトレンチを複数本設定して確認調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。このこともあり、今回は1.5×2.0～2.5mの小さめのトレンチを均等に配置した。

基本層序

調査の結果、トレンチ１・２からは遺構・遺物は確認されなかった。現地表面下（ＧＬ）、約0.7～0.8mほど掘削し、表土が0.4～0.6m、腐葉土の褐色土層が0.2～0.3mほど堆積し、その下層は黄色砂礫層を呈する地山層であった。トレンチ３～５は、１・２とは様相が異なっており、竹林との境は一段高い状態であった。現地表面下（ＧＬ）、約0.6～1.0mほど掘削したところ、表土が0.3mで、下層に暗褐色を呈する古墳時代から安土桃山時代の遺物を多量に含んだ遺物包含層を形成していることが確認された。層厚は約0.4～0.6mをはかり細分できる。さらに、下層には黒褐色を呈する遺構埋土と推測される層が確認された。地山はトレンチ１・２とは異なり、砂礫を含まない明黄褐色シルト質粘土であった。

検出遺構

検出された遺構は、トレンチ４・５の地山面において柱穴を検出しており、トレンチ５では表土直下で５～10cm程度の集石遺構が土層断面で確認された。トレンチ３では、遺物包含層の確認にとどめたため、地山面までの掘削は行っていない。

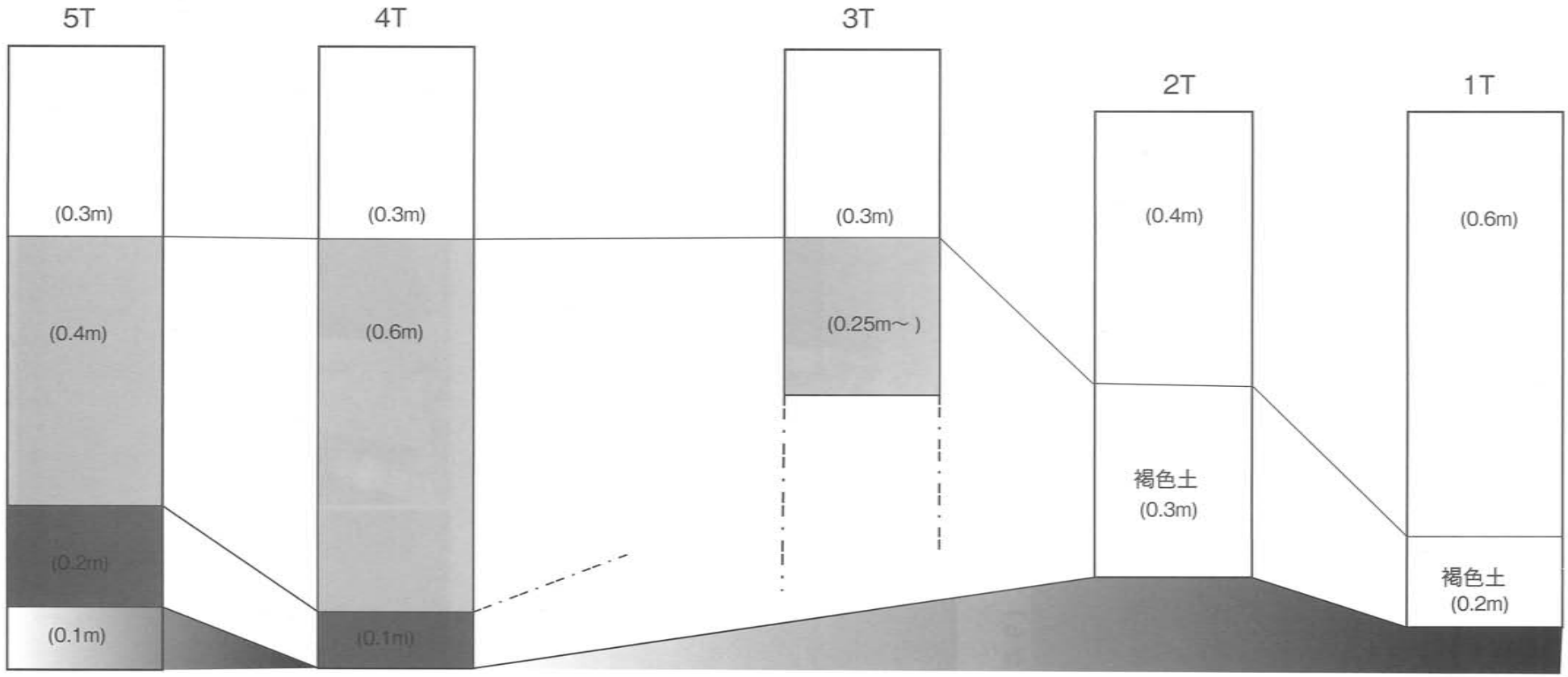
出土遺物　トレンチ３～５で出土した遺物は、須恵器長頸瓶・甕（６～９世紀）、ふいごの羽口（古代？）、須恵器質の甕片、土師器皿（12～13世紀）、瓦器椀（12～13世紀）、陶磁器・平瓦（15～16世紀）などで、遺物収納コンテナに１箱ほどである。これら出土した遺物には時期差が見られることから、当該時期を主体とするの遺構面（生活面）が複数存在することが確認された。

まとめ

今回の確認調査では、安威古墳群に近接していることから、古墳が存在する可能性が高いと推測されたが、確認調査では発見されなかった。トレンチ１・２については遺構・遺物が確認されなかったと同時に土の堆積状況から近世から近代にかけて土地の改変をうけた後に竹林となった可能性があることがわかった。トレンチ３～５では、中世を中心とする遺構や遺物が多数確認されたことから、当該期の集落跡等の遺構群が存在するほかに、古墳時代の遺物が出土したことなどから、古墳が埋没している可能性は否定できないと考えられる。

参考文献

茨木市教育委員会 『平成14年度発掘調査概報』 「安威城跡」 平成15年３月



第37図　トレンチ土層断面図

第38図 トレンチ1全景（西から）

第39図 トレンチ1断面（西から）

第40図 トレンチ2全景（北から）

第41図 トレンチ2断面（北から）

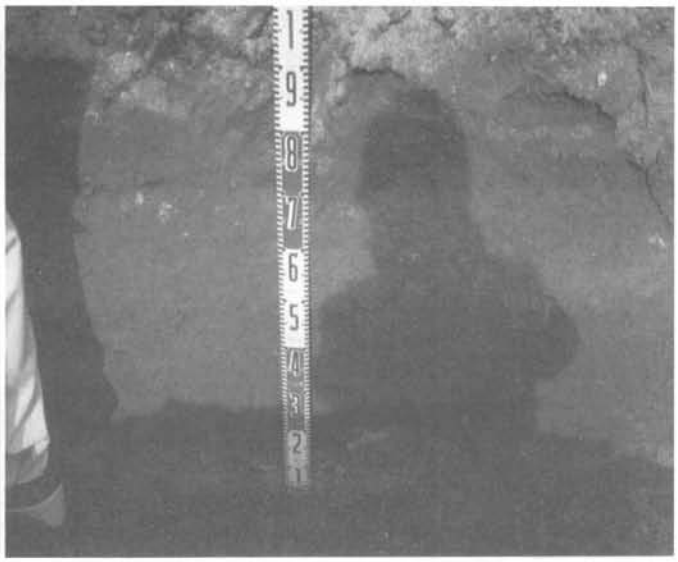
第42図 トレンチ3全景（東から）

第43図 トレンチ3断面（南から）

第44図 トレンチ4全景（南から）

第45図 トレンチ4断面（南から）

第46図 トレンチ4断面2（南から）

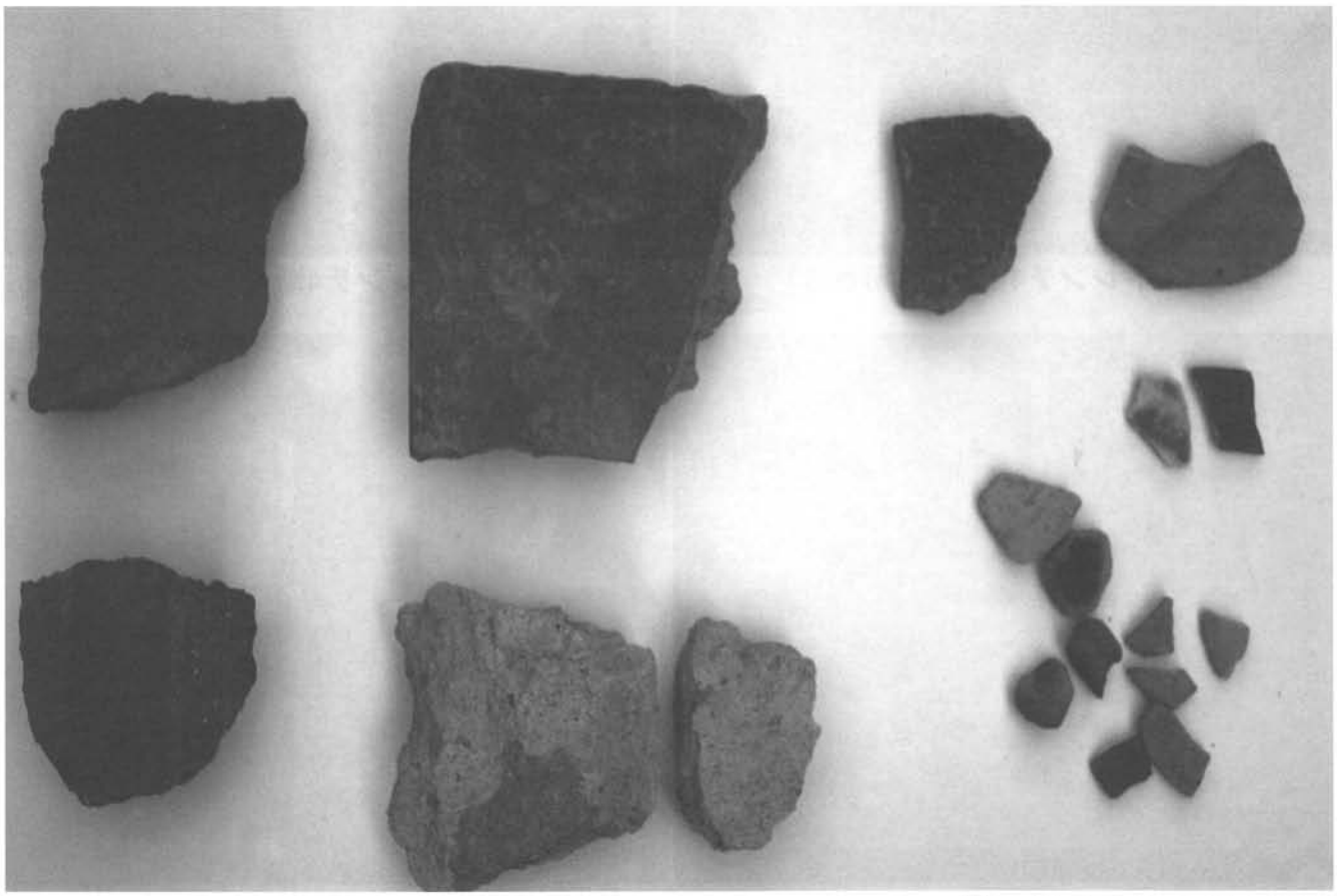


第47図 トレンチ4断面3（南から）

第48図 トレンチ5全景（南から）

第49図 トレンチ5断面（南から）

第50図 トレンチ5断面（北から）



第51図 トレンチ出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおさかふいばらきしへいせいにじゅうねんどはっくつちょうさがいほう　-こじんじゅうたくけんちくにともなうはっくつちょうさほうこく-
書名	大阪府茨木市平成２０年度発掘調査概報　-個人住宅建築に伴う発掘調査報告-
副書名	平成２０年度（２００８年度）
巻次	
シリーズ名	
シリーズ書	
編著者名	中東正之・黒須靖之・宮本賢治
編集機関	茨木市教育委員会
所在地	567-8505　大阪府茨木市駅前三丁目８番１３号
発行年月日	西暦２００９年３月３１日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
中条小学校	西中条町139-10	27211	52	34-48-43	135-33-51	20080618 ～ 20080619	18.0 ㎡
中条小学校	西中条町139-5	27211	52	34-48-43	135-33-51	20080618 ～ 20080619	18.0 ㎡
見付山南	見付山一丁目316-16	27211	1010	34-49-08	135-33-23	20080710	18.0 ㎡
中条小学校	下中条町100-12	27211	52	34-48-42	135-33-56	20080812	18.0 ㎡
中条小学校	西中条町192-8の一部	27211	52	34-48-48	135-33-52	20080930 ～ 20081001	18.0 ㎡
耳原	耳原一丁目197-8	27211	31	34-50-17	135-33-47	20081022 ～ 20081023	12.0 ㎡
倍賀	春日四丁目228-5・228-6	27211	47	34-49-26	135-34-04	20081030	15.0 ㎡
郡	上郡一丁目493-5	27211	35	34-49-58	135-33-33	20080119 ～ 20080120	12.0 ㎡
春日	春日三丁目101-18	27211	60	34-49-19	135-33-46	20080224 ～ 20080226	24.9 ㎡
安威	安威三丁目	27211	8	34-51-13	135-33-54	20071111	20.0 ㎡

所収遺跡名	種別	主時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中条小学校	集落	中世時代	土壙・溝	土師器	
中条小学校	集落	中世時代	土壙・溝	土師器	
見付山南	集落			須恵器	出土遺物は攪乱層中の流れ込み堆積より出土。
中条小学校	集落	弥生時代～古墳時代	溝・柱穴	弥生土器	
中条小学校	集落	弥生時代～中世時代	溝・周溝	土師器・須恵器	
耳原	集落	弥生時代	柱穴・土壙・溝	弥生土器	
倍賀		古墳時代	溝	土師器片	
郡	集落	弥生時代～古墳時代	土壙・溝	弥生土器・土師器	
春日	集落	古墳時代 平安時代～中世時代	柱穴・土壙・溝	土師器・須恵器	
安威古墳群	古墳群	古墳時代 平安時代～中世時代			包蔵範囲確認のための緊急調査

平成２０年度発掘調査概報
- 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 -

発行日　平成２１年３月３１日
発　行　茨木市教育委員会
印刷所　株式会社　西川印刷所